

長	野	県		
埋	蔵	文	化	財
セ	ン	タ	ー	
年	報		30	

2013

一般財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

長野県埋蔵文化財センター一年報 30

2 0 1 3

一般財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター



中野市 南大原遺跡出土土器



長野市 浅川扇状地遺跡群出土土器 (写真右：高さ約 38 cm)



長野市 塩崎遺跡群出土玉類とヒスイ原石（長さ約 6 cm 重さ 260 g）



佐久市 高尾古墳群 5号墳



松本市 海岸寺遺跡遠景



南牧村 矢出川第Ⅷ遺跡出土石器 (写真左上長さ約7 cm)

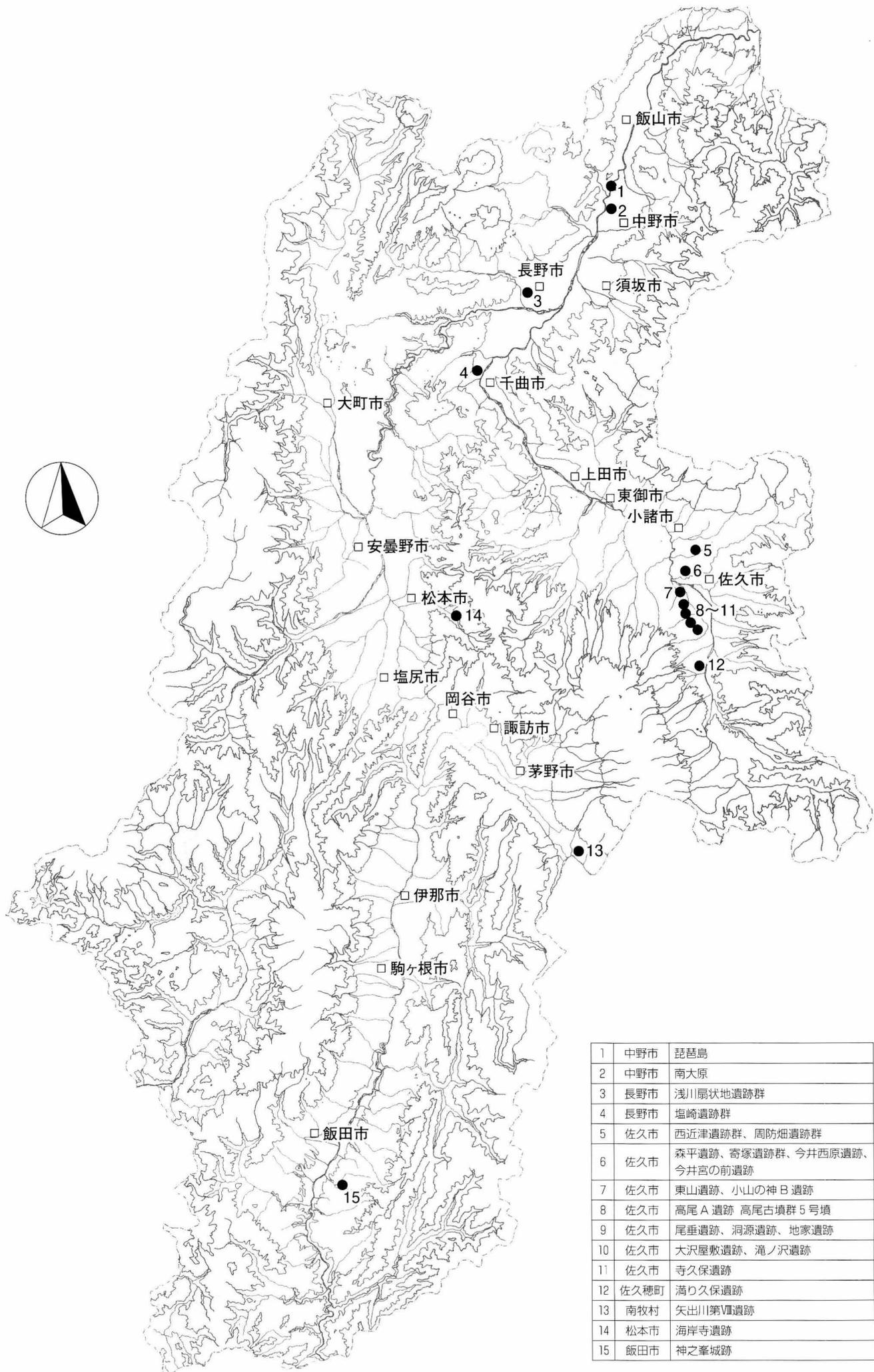
目 次

口絵写真

- ・中野市 南大原遺跡出土土器
- ・長野市 浅川扇状地遺跡群出土土器
- ・長野市 塩崎遺跡群出土玉類とヒスイ原石
- ・佐久市 高尾古墳群 5 号墳
- ・松本市 海岸寺遺跡遠景
- ・南牧村 矢出川第Ⅷ遺跡出土石器

目 次

I	2013 年度の埋蔵文化財センター	1	IV	普及公開活動の概要	
			(1)	国庫補助事業の概要	29
II	発掘作業の概要	2	(2)	展示会 講演会	31
(1)	琵琶島遺跡	3	(3)	現地説明会	32
(2)	南大原遺跡	4	V	研修等の概要	
(3)	浅川扇状地遺跡群	5	(1)	講師招聘などによる指導	33
(4)	塩崎遺跡群	8	(2)	全埋協等への参加	33
(5)	神之峯城跡	11	(3)	研修および資料調査	34
(6)	海岸寺遺跡	14	(4)	学会・研修会などでの発表	34
(7)	東山遺跡	16	(5)	市町村・関係機関などへの協力	34
(8)	大沢屋敷遺跡	16	(6)	学校関係への協力・指導	36
(9)	小山の神 B 遺跡	17	(7)	資料の貸し出し	37
(10)	高尾 A 遺跡 高尾古墳群 5 号墳	19	VI	組織・事業の概要	38
(11)	満り久保遺跡	21	(1)	組 織	
(12)	矢出川第Ⅷ遺跡	22	(2)	職 員	
III	整理作業の概要	24	(3)	事 業	
(1)	西近津遺跡群	25		奥付	
(2)	森平遺跡ほか	28			



1	中野市	琵琶島
2	中野市	南大原
3	長野市	浅川扇状地遺跡群
4	長野市	塩崎遺跡群
5	佐久市	西近津遺跡群、周防畑遺跡群
6	佐久市	森平遺跡、寄塚遺跡群、今井西原遺跡、今井宮の前遺跡
7	佐久市	東山遺跡、小山の神B遺跡
8	佐久市	高尾A遺跡 高尾古墳群5号墳
9	佐久市	尾垂遺跡、洞源遺跡、地家遺跡
10	佐久市	大沢屋敷遺跡、滝ノ沢遺跡
11	佐久市	寺久保遺跡
12	佐久穂町	満り久保遺跡
13	南牧村	矢出川第VIII遺跡
14	松本市	海岸寺遺跡
15	飯田市	神之峯城跡

図1 平成25年度調査・整理対象遺跡

2013年度の事業概要

本年度は8件の開発事業にかかる発掘・整理作業を受託し、速報展等の自主事業と市町村への技術指導を1件行った。

発掘作業のうち、技術指導を除く調査の対象となった遺跡は17ヶ所、総面積67,980㎡で、継続事業の中部横断自動車道関連事業、三遠南信自動車道関連事業、県道高田若槻線建設関連事業などのほかに、本年度より新たに坂城更埴バイパス改築関連事業ほか2事業の発掘作業に着手した。

また、中部横断自動車道関連事業の整理作業を進め報告書2冊を刊行した。事業費総額は666,337千円で前年度とほぼ同規模である。

以下、ここでは、主に発掘作業の成果を時代ごとに概観してみよう。

■旧石器時代 始良丹沢火山灰降灰以前、25,000年をさかのぼる石器群が矢出川第Ⅷ遺跡(南牧村)から発見された。石刃や縦長剥片を素材としたナイフ形石器に貝殻状刃器が伴う。

これまで野辺山高原では、最終氷期最寒冷期の約2.2万年前の石器群が最古と考えられていたが、今回の調査により同地域における遺跡の開始時期は、約3万年前まで遡ることが明らかとなった。また、水晶製の石器がまとまって出土するなど、重要な発見が相次いだ。満り久保遺跡(佐久穂町)では、槍先形尖頭器、細石刃核が出土し、2時期の石器群の存在が示唆された。

■縄文時代 高尾A遺跡(佐久市)では前期前半期の竪穴住居跡1軒を調査した。丘陵斜面に立地するため全容は不明であったが、珧状耳飾等の出土をみた。立地条件の似た小山の神B遺跡(佐久市)の成果と併せて、佐久地域の前期集落の動向を考える上で、新たな情報を提供できた。

大沢屋敷遺跡(佐久市)、満り久保遺跡(佐久穂町)などで、中期から後期の土器とともに、土坑が検出された。南大原遺跡(中野市)では、「南大原式土器」の命名のもとになった前期土器と竪穴状の遺構が調査されている。

■弥生時代 浅川扇状地遺跡群(長野市)では、溝跡から人頭大の河原石とともに、壺、高坏、甕、

蓋などがほぼ完形で一括出土した。弥生時代末と考えられる壺は口縁が2段につくられたものがあり、注目される。

塩崎遺跡群(長野市)は、千曲川左岸の自然堤防上にあり弥生から古代にかけての竪穴住居跡が重複して確認されている。中期3軒、後期28軒の竪穴住居跡のほか、再葬墓、方形周溝墓、木棺墓、土壙墓なども検出された。副葬品と考えられる玉類はヒスイ製の勾玉、管玉など50点以上認められ、なかでも、ヒスイの原石の出土は特筆される。このほか、南大原遺跡(中野市)では、後期の竪穴住居跡から鉄鏃、片刃鉄斧が出土している。

■古墳時代から古代 塩崎遺跡群(長野市)では、周溝のみであるが、5世紀後半の円墳3基が確認された。1基の周溝内からはウマの骨が出土した。骨は1頭分と思われ、頭骸骨や四肢骨などがばらばらの状態で、古墳被葬者の葬送儀礼に伴う事例と考えられる。県内の類例は、今まで南信の飯田市周辺に限られていたが、北信の長野市では初見となった。

高尾古墳群5号墳(佐久市)は新発見の横穴式石室を持つ円墳で、墳丘部は残っていなかったが、貴重な調査成果となった。小山の神B遺跡(佐久市)では斜面地に平安時代の竪穴住居跡9軒が検出され、カマドの多くは山側壁にあり、遺存状況が良く、煙道を石で組んで構築した事例があった。

■中近世 浅川扇状地遺跡群(長野市)では、中近世の掘立柱建物跡の柱穴が多数検出された。当地は高野氏館跡(桐原要害)の推定地にあたり、以前調査された堀跡との関係を含め、今後の調査に期待される。また、旧北国街道沿いの調査区で、幕末の火災で焼けた大量の瓦、一分銀を模した土製模造貨等も検出されている。

海岸寺遺跡(松本市)は、寺院跡の可能性が想定されていたが、今年度の調査では関連する遺構・遺物は得られなかった。

神之峯城跡(飯田市)の2年間にわたる調査の結果、城域は独立丘陵全体に及ばず、調査対象地は城外であり、中近世の寺院や掘立柱建物跡が検出された。

Ⅱ 発掘作業の概要

遺跡名	所在地	事業名	面積㎡	調査期間	時代・内容	主な遺物
びわしま 琵琶島	中野市	県道豊田中野線	2,660	4月8日～ 7月31日	弥生時代：竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、遺物集中。	縄文時代：早・前・後期の土器、石器。弥生～古代：土器。中近世：陶磁器。
みなみおほほら 南大原		県道三水中野線	939	8月1日～ 11月13日	弥生時代：竪穴住居跡、竪穴状遺構、方形周溝墓、礫床木棺墓、木棺墓、溝跡、土坑。	縄文時代：土器、石器。弥生時代：土器、石器、太型蛤刃石斧、鉄鏃。
あさかわせんじょうら 浅川扇状地	長野市	県道高田若槻線	7,423	4月8日～ 12月19日	弥生～古墳：方形周溝墓。弥生～中近世：竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土坑、水田跡。	弥生～古代：土器、須恵器、土師器。中近世：陶磁器、五輪塔、瓦。
しおさき 塩崎	長野市	坂城更埴バイパス	3,190	4月12日～ 12月25日	弥生～古代：竪穴住居跡、方形周溝墓、古墳、土坑。弥生～中世：溝跡。古代：掘立柱建物跡。	縄文～中世：土器、陶器、石器。弥生～古代：石製品（勾玉、ヒスイ原石）、鉄製品、人骨、獣骨。
かいがんじ 海岸寺	松本市	通常砂防	5,800	8月1日～ 12月17日	古代：竪穴住居跡、掘立柱建物跡。近世：石垣。	縄文時代：土器・石器。古代：土器、灰釉陶器。中近世：内耳鍋、陶磁器。
かみのみねじょう 神之峯城	飯田市	飯番道路	14,044	3月4日～ 12月16日	中近世：掘立柱建物跡、土坑、溝跡、焼土跡、集石。近世以前：堀状遺構。近世：石組み遺構。	中近世：土器、陶磁器、石製品、青銅製品、鉄製品。
ひがしやま 東山	佐久市	中部横断自動車道	640	4月12日～ 4月30日	時期不明：溝跡。	縄文時代～中世：土器、石器、陶磁器。
おだれ 尾垂			3,640	6月24日～ 8月23日	なし	なし
たかお たかお 高尾A 高尾 こみくみ とうみん 古墳群5号墳			6,810	5月27日～ 9月4日	縄文時代：竪穴住居跡。古墳時代：古墳。時期不明：溝跡。	縄文時代：土器、石器、耳飾。古墳～古代：土師器、須恵器、人骨。
こやま かみ 小山の神B			6,250	8月29日～ 12月16日	縄文時代：土坑。古代：竪穴住居跡、焼土跡、溝跡。中近世：溝跡。	縄文時代：土器、石器。古代：土器、鉄製品。中近世：石製品。
たき さわ 滝ノ沢			7,790	9月30日～ 11月15日	なし	なし
おおさわやしき 大沢屋敷			100	11月7日～ 11月27日	縄文時代：土坑。	なし
ぢけ 地家			170	11月20日	なし	なし
てらくほ 寺久保			5,070	11月26日～ 12月17日	なし	なし
どうげん 洞源			3,100	12月6日～ 12月20日	古代：土坑、焼土跡。	古代：土器。
ま くりほ 満り久保			佐久穂町	300	4月18日～ 6月10日	旧石器：石器集中。縄文時代：土坑。
や でかわだ 矢出川第Ⅷ	南牧村	農地改修	600	10月1日～ 12月4日	旧石器：石器集中。中世：陥し穴。	旧石器：ナイフ形石器。貝殻状刃器、水晶石核、剥片。

びわじまいせき (1) 琵琶島遺跡

(県道豊田中野線関連)

所在地及び交通案内：中野市豊津字大日影。

上信越自動車道中野 IC から北西約 9.7 km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸に発達した河岸段丘上（標高 320～340 m 付近）に立地する。調査地点は、千曲川に強く張り出した段丘上にある。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
25.4.8～7.31	2,660 m ²	綿田弘実 黒岩 隆 大澤泰智

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴状遺構	1	近世？
掘立柱建物跡	2	弥生
土坑	83	縄文～弥生

弥生時代中期後半の集落

平成 23 年度から調査を行い、3 年目の今年度が最後の発掘作業となる。昨年度の調査地に隣接した東区と、そこから南西方向に約 100 m 離れた南区が今年度の調査地である。

東区では竪穴状遺構 1 基、掘立柱建物跡 1 棟、約 60 基の土坑がみつき、いずれも埋土中から弥生土器が出土した。掘立柱建物跡は長軸を南北にとり、桁行 4 間、梁行 1 間の柱間構造をもつ。昨年度の調査で、長軸を南北にとる掘立柱建物跡を弥生時代中期と判断していることから、この建物も同時期の可能性が高い。

南区では縄文・弥生土器片が混在して出土する遺物包含層、掘立柱建物跡 1 棟と、弥生土器片の集中出土域 1 ヶ所、土坑約 20 基を調査した。

遺物包含層は南区の東側と西側にのみ残存し、石匙や尖頭器など縄文時代の石器の出土もある。

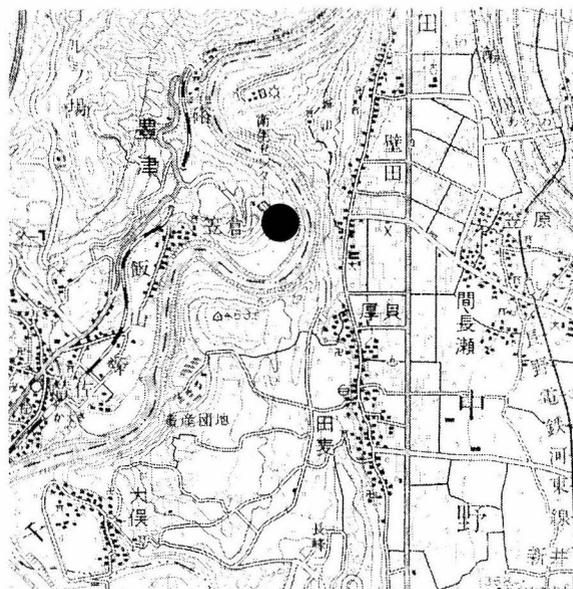


図 2 琵琶島遺跡の位置 (1 : 50,000 中野)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文前期～後期、弥生中期後半
石器	縄文～平安（石匙、尖頭器、石錘ほか）

掘立柱建物跡は長軸を北西 - 南東方向にとり、柱間の間隔もやや変則的である。南東方向の柱間の間隔に対し、北西方向の柱間は半分程度しかない。両区の掘立柱建物跡には、構造的に違いが考えられ、時期、立地、役割の違いなどが予想される。

調査のまとめ

調査区の東側にあたる千曲川の川岸付近では、弥生時代中期の遺構や遺物が多くみつかった。千曲川沿いには栗林遺跡や柳沢遺跡など、大規模かつ出土遺物に特色のある弥生時代の遺跡がある。両遺跡の中間地にあたる本遺跡が、どんな役割を担っていたかを検討することが今後の課題である。



図 3 弥生時代中期後半の掘立柱建物跡

みなみおおほらいせき (2) 南大原遺跡

(県道三水中野線関連)

所在地及び交通案内：中野市上今井字南大原。

上信越自動車道中野 IC から北西約 2.6 km。

遺跡の立地環境：旧千曲川左岸に発達した沖積地上に立地し、調査地点は現千曲川にかかる上今井橋のたもと付近にある。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
25.8.1～11.13	約 939 m ²	黒岩 隆 長谷川桂子

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	6	弥生中期後半～後期初頭
竪穴状遺構	2	縄文前期、弥生中期後半
礫床木棺墓	3	弥生中期後半(栗林式期)
木棺墓	2	弥生中期後半(栗林式期)
方形周溝墓	1	弥生後期(箱清水式期)
溝跡	3	弥生中期後半～後期
土坑	70	弥生中期後半(栗林式期主体)

旧千曲川左岸の沖積地上に営まれた
弥生時代中期後半～後期のムラ

県道建設に伴う南大原遺跡の発掘調査は、今年度が最終年度にあたり、3ヶ年で約 3,200 m²を調査した。今年の調査区は県道を挟んだ、昨年度調査区の東側で、沖積地の高まりにあたる。調査の結果、弥生時代後期の竪穴住居跡、方形周溝墓、中期後半の竪穴住居跡や礫床木棺墓などの墓跡が確認された。

また、「南大原式土器」の命名のもとになった縄文時代前期の土器や、性格は明らかではないが、竪穴状の遺構も初めて発見されている。



図4 南大原遺跡の位置 (1:50,000 中野)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文前期、弥生中期後半～後期
石器	弥生中期後半～後期(打製石鏃、磨製石鏃、大型蛤刃石斧、刃器、勾玉ほか)
鉄器	弥生中期後半～後期(片刃鉄斧、鉄鏃ほか)

遺構・遺物の特色

弥生時代中期後半の時期には、中央の大溝を挟んで、北側に2軒、南側に2軒の竪穴住居跡が確認された。硬くしまった住居の床面には、置かれたままの状態をつぶれた壺が多数出土するなど、興味深い遺物出土状況が観察された。また、同時期の礫床木棺墓、木棺墓2基が並んで確認され、集落における墓域が明らかとなった。

弥生時代後期には、竪穴住居跡や方形周溝墓がつくられ、住居跡からは鉄鏃も出土し、金属器の使用が明確に示される重要な成果が得られた。



図5 つぶれた壺が出土した住居跡の床面

(3) あさかわせんじょうち いせきぐん 浅川扇状地遺跡群

(県道高田若槻線関連)

所在地及び交通案内：長野市桐原・吉田。

長野電鉄桐原駅から東約 0.2 Km。

遺跡の立地環境：飯縄山を水源とする浅川によって形成された扇状地上に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
25.4.8～12.19	7,423 m ²	鶴田典昭 廣田和穂 鈴木時夫 高津希望 大久保邦彦

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	54	弥生、古墳、奈良・平安
掘立柱建物跡	2	古代 中近世
溝跡・流路跡	36	弥生、古代～近世
土坑(柱穴を含む)	620	弥生～中・近世

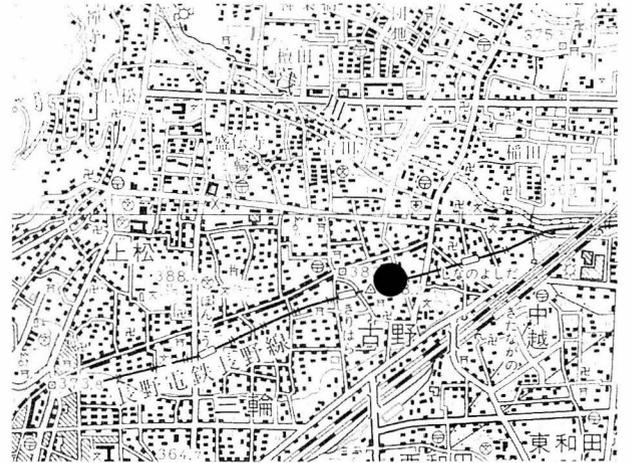


図6 浅川扇状地遺跡群の位置 (1:50,000 長野)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	縄文前期、弥生中・後期、古墳前期～後期、奈良・平安、中・近世
石器・石製品	古代～中世(砥石、石臼、五輪塔ほか)
金属製品	平安(鉄鏃?ほか)、中近世(銭貨ほか)
骨	古代～中世(獣骨、歯)
瓦	近世(火災で焼けた浅瓦ほか)



図7 調査区遠景(北から)

市街地の下の集落跡

平成 23 年度から発掘調査を開始し、3 年間の発掘調査で竪穴住居跡 167 軒のほか、中世の堀跡・中世の墓などが確認された。調査対象地区は南北に約 870 m に及び、長野電鉄線を境に、南側を桐原地区（1～4 区）、北側を吉田地区（5・6 区）と区分した。今年度の調査は、5 a・5 b 区、6 b・6 c 区、1 d 区、3 a・3 b 区で実施した。

吉田地区では弥生時代後期と平安時代の竪穴住居跡、弥生時代の自然流路跡などを確認した。なお、縄文時代前期及び弥生時代中期の土器片が少量出土したが、当該期の遺構は確認されていない。

桐原地区の調査では、弥生時代後期～平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡、中近世の掘立柱建物跡・井戸跡などが確認され、弥生時代から中世の各時代の集落跡が重複している状況がわかった。

弥生時代の集落と方形周溝墓

弥生時代中期では、6 区で中期後半の栗林式土器が少量出土したが、当該期の遺構は認められない。後期では、5 b 区と 6 区とで吉田式期の竪穴住居跡各 1 軒が検出された。また、3 区では箱清水式及び弥生時代後期末から古墳時代前期初頭の

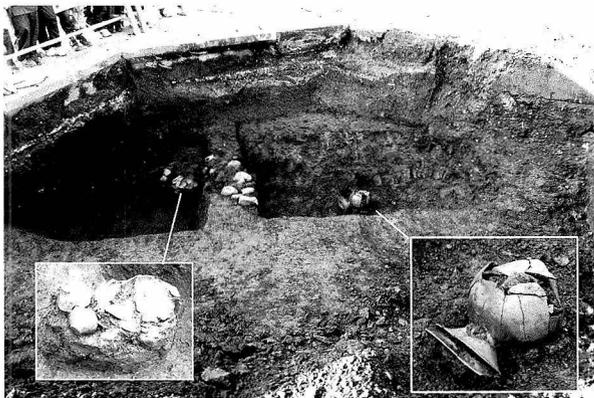


図 8 SD 13 の遺物出土状況と遺物

の竪穴住居跡が 7 軒確認された。

平成 23 年度からの調査結果をふまえると、吉田地区には、後期前半の吉田式期の竪穴住居跡がまとめ、桐原地区では後期後半の箱清水式から後期末の竪穴住居跡が多い傾向にある。一方、長野電鉄線南側の 1 d 区北端で、弥生時代の溝跡（SD 13）が検出され、人頭大の河原礫とともに、壺、高坏、甕、蓋などがほぼ完形で出土した。遺物は埋土の中位から出土し、埋没する過程で上部から転落したと推定される。出土した壺には大小 2 種類があり、大型の壺は底部が欠けて失われていた。規模は幅 1.4～2.6 m、深さ約 1.1 m で、コーナーを有する二辺が検出された。長野電鉄線に接しており、全形は不明であるが、方形周溝墓の溝跡である可能性が高い。

古墳時代の集落

1 d 区と 3 区で前期から後期の竪穴住居跡が 8 軒検出された。3 区では未確認であった中期の竪穴住居跡が確認され、古墳時代中期から後期の集落が存在することが明らかとなった。中でも、SB 3001、SB 3003、SB 3010 は一辺 7 m を超す大型竪穴住居跡で、同時期の他の竪穴住居跡に比べ 2 倍以上の大きさである。また、3 区南部には最大幅 14 m、深さ 2 m ほどの溝跡（SD 3013）があ



図 9 3 区全景写真（合成）と竪穴住居跡

り、北縁底面から土器がまとまって出土した。

溝跡は、古墳時代中期から後期にかけて存在したと考えられ、竪穴住居跡に隣接していた可能性がある。各遺構の出土遺物と時期の詳細な検討を行う予定である。

奈良・平安時代の集落

5b区(吉田地区)と1d・3区(桐原地区)で竪穴住居跡32軒が検出された。3区では、すべての竪穴住居跡の軸が南北にそろっており、古墳時代以前の竪穴住居跡と異なる方向を向いている。

この傾向は桐原地区で概ねみられ、吉田地区では必ずしも南北の方向を向いていない。

なお、3区では円面硯、緑釉陶器の破片、平成23年度に1区で筆立て付円面硯(奈良時代)が出土している。桐原地区と吉田地区では、出土遺物においても、内容に差がある可能性がある。

中世・近世の集落

3区では、中世から近世の掘立柱建物跡の柱穴が多数検出された。ST 3001は柱穴底面に礎盤石をもち、南に側柱を配した大型の掘立柱建物(側柱を除いて14.92m×4.80m)である。この遺構の明確な時期や性格は今のところ明らかではないが、2区で検出された中世館の堀跡との関係も考慮すれば、来年度以降の両地区間の調査に期待するところが大きい。

また、6c区、5a区は北国街道とされる「相の木通り」沿いの調査区で、幕末の火災で焼けた多量の瓦、一分銀を模した土製模造貨(図11上)など、江戸時代の遺物、遺構が検出されている。



図10 大型の掘立柱建物跡(ST 3001)

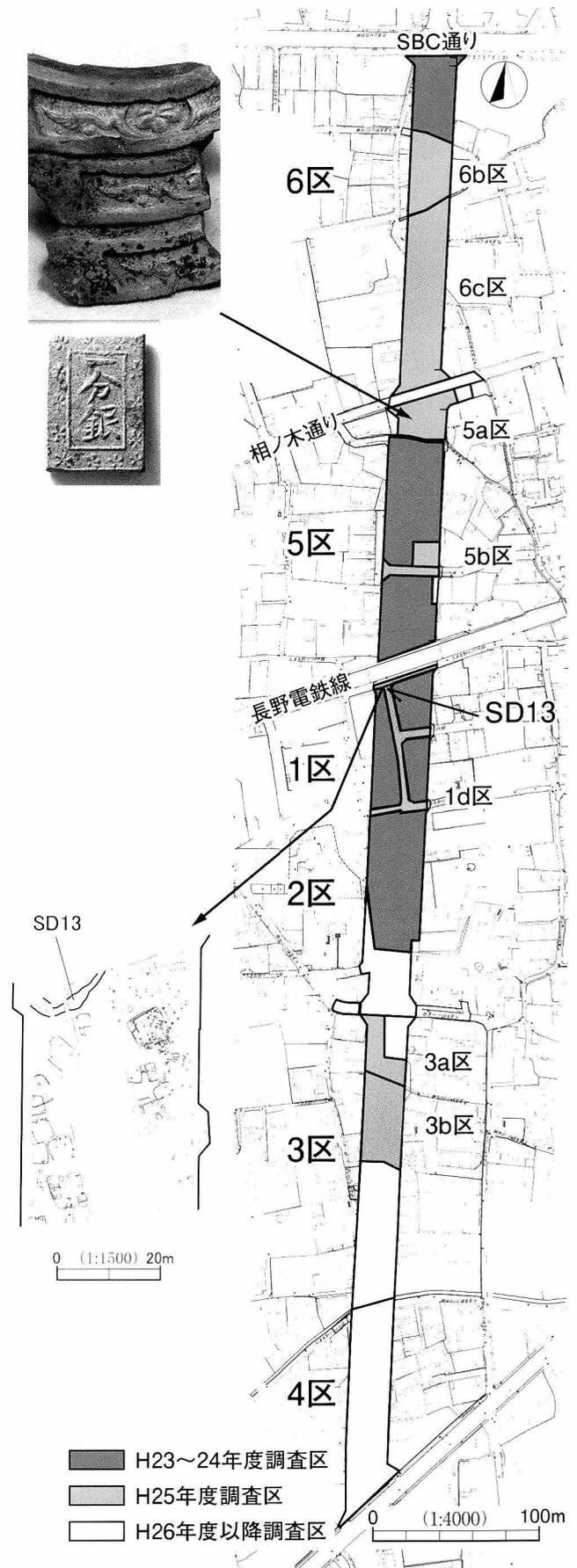


図11 調査区全体図

しおざき い せきぐん (4) 塩崎遺跡群

(一般国道 18 号坂城更埴バイパス関連)

所在地及び交通案内：長野市篠ノ井塩崎。

JR 稲荷山駅から南東約 800 m。

遺跡の立地環境：千曲川左岸の自然堤防上に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
25.4.12～12.25	3,190 m ²	西 香子 廣瀬昭弘 黒岩 隆 内堀 団 前田一也

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	68	弥生、古墳、奈良・平安
掘立柱建物跡	1	古代
墓	19	弥生～古代 (古墳 3 基・方形周溝墓 1 基含む)
溝跡	21	弥生～中世
土坑	278	弥生～古代

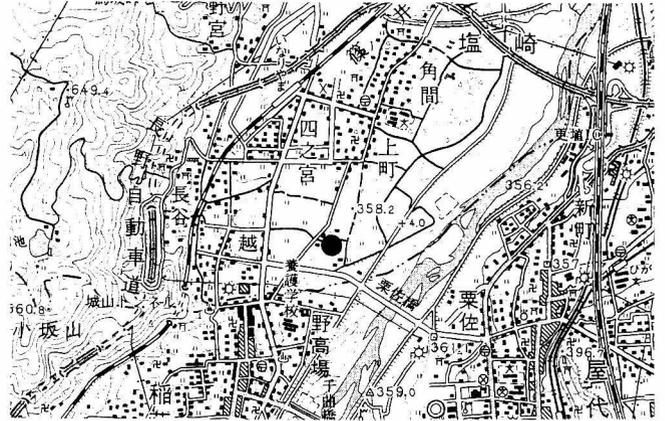


図 12 塩崎遺跡群の位置 (1 : 50,000 長野)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	縄文後・晩期 (深鉢ほか)、弥生中・後期 (壺、甕ほか)、古墳前～後期 (壺、高坏ほか)、奈良・平安 (坏、蓋ほか)、中世 (皿ほか)
石器・石製品	弥生 (石鏃、磨製石斧、打製石斧、石包丁、剥片、勾玉、管玉)、古墳 (管玉ほか) 古代～中世 (砥石ほか)
ガラス製品	弥生～古墳 (ガラス小玉)
金属製品	平安 (紡錘車、刀子ほか)
骨	弥生～古代 (人骨、獣骨)
その他	ヒスイ原石



図 13 遺跡近景 (西側上空より)

塩崎遺跡群は長野市の南端、千曲川左岸に位置する。その範囲は、聖川から千曲市境まで南北に約2 km、東西に最大幅約800 mに広がる。遺跡群内には伊勢宮遺跡など弥生時代を中心とした大規模な遺跡が周知され、これまでに長野市教育委員会によって発掘調査がなされてきた。

道路建設予定地は、南北に延びる千曲川の自然堤防上に位置する遺跡群を東西に横断するように計画された。今年度は、千曲川寄りの1区とした事業地の東端の南側と、市道を挟んだ西側の2区の北東側とで調査を行った。

幾時代にもわたって営まれた集落

調査では、千曲川寄りの自然堤防端部にあたる調査地東側を除くほぼ全面で、竪穴住居跡が重複して確認され、出土した土器などの遺物はコンテナ約300箱にのぼる。確認された竪穴住居跡は68軒で、その内訳は、弥生時代中期3軒・後期28軒、古墳時代前期1軒・後期4軒、奈良・平安時代32軒となり、約1,000年間にわたってこの地区に集落が形成されていたことが分かってきた。しかしながら、弥生時代中期や古墳時代の前半期に所属する竪穴住居跡は少ないため、その期間は集落が今回の調査地以外の地区に移り、調査地は墓域として利用されていたことが考えられた。

また、平安時代の後半以降に所属すると思われる遺構は、墓が1基と地区を区画するような浅い直線的な溝跡のみにとどまり、この地区が現在と同じような畑地などの生産域へとかわっていったことも推考される。



図14 完形に近い状態で出土した弥生時代後期の甕



図15 古墳時代の竪穴住居跡

さまざまな墓

調査では、19基の墓が確認された。墓からは遺物の出土が少なく、その多くは細別時期を特定できないものの、弥生時代の再葬墓・方形周溝墓・木棺墓・土壙墓、古墳時代の円墳、平安時代の土壙墓など異なる時期の様々な形態の墓がみつかっている。

また、副葬品と考えられるヒスイ製の勾玉、水晶製の算盤玉、緑色凝灰岩・鉄石英・メノウなどいろいろな石材で製作された管玉やガラス製の小玉などの装飾品が50点以上出土しているが、墓から出土したものは少なかった。

弥生時代の墓は、中期の再葬墓・礫床木棺墓、後期末の方形周溝墓が確認されている。方形周溝墓は約12 m×13 mで北西に面する1辺に開口部が設けられている。また、はっきりした時期は不明であるが、切り合いなどから弥生時代に所属すると思われる木棺墓や土壙墓も確認されている。多くの墓壙から人骨の出土が確認されたが、残存状態はかなり悪く、埋葬姿勢などははっきりしていない。

古墳時代の墓としては、千曲川寄りで3基の円墳が確認された。いずれも後世の耕作等により墳丘部は削平され、周溝のみの検出となった。時期は、周溝から出土した土器などから、5世紀後半に所属すると思われる。3基のうち最も東側で確認された古墳周溝(SM 1009)は、幅約2 m・深さ約40~60 cm、推定される直径は約18 mで、周溝内からは高坏や壺などとともに、ウマの骨が出土した。出土した骨は1頭分と思われるが、頭

骸骨や四肢骨などがばらばらの状態で出土し、この状況からみて、古墳被葬者の葬送儀礼に伴い周溝内に遺棄された可能性が考えられる。県内で同時期のウマの骨の出土が確認されたのは、今まで南信の飯田市周辺に限られていたが、北信の長野市で確認されたことは、古墳時代の馬の飼育管理等に携わるような有力者の存在を考察する上で重要な発見となった。

平安時代以降に所属する墓は、土壙墓が1基確認されている。出土した人骨の残存状態はあまりよくないが、頭を北にして手足を伸ばした状態で

埋葬されていた。

次年度以降の調査に向けて

今後、調査は自然堤防の中央部に向かって進み、さらに後背湿地へと調査範囲が広がることとなる。

この結果、時代及び時期毎に捉えられる居住域と墓域のあり方に加え、生産域との関係が具体的に見えてくることになろう。また、ウマの骨が出土した古墳の全体像が明らかとなり、古墳被葬者に対する葬送儀礼が復元されることも期待される。



図 16 弥生時代後期の方形周溝墓

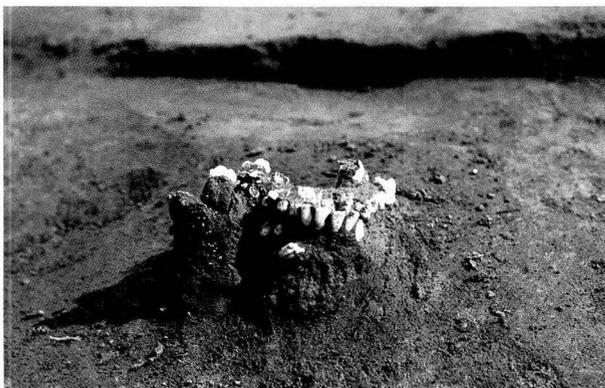


図 17 弥生時代の墓跡から出土した人骨（歯）



図 18 平安時代後半以降の墓跡人骨出土状況



図 19 古墳周溝 (SM 1009) の遺物出土状況

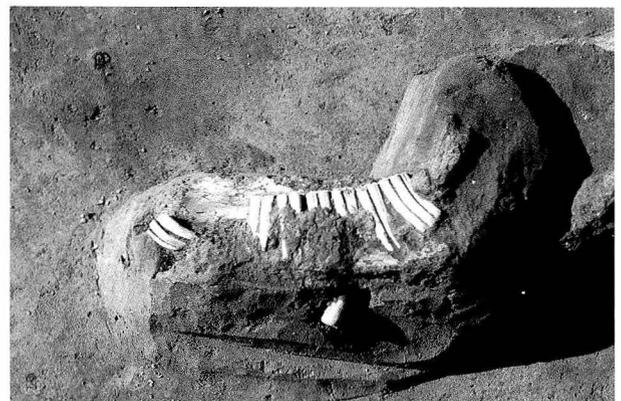


図 20 古墳周溝 (SM 1009) 出土のウマの下顎骨

かんのみねじょうせき (5) 神之峯城跡

(飯喬道路関連)

所在地及び交通案内：飯田市上久堅。

天竜川（水神橋）から東側に約5km。

遺跡の立地環境：玉川左岸にある独立丘陵。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
25.3.4～12.16	14,044 m ²	河西克造 市川隆之 三木雅博 古賀弘一 大澤泰智 宮村誠二

検出遺構

遺構の種類	数	時期
掘立柱建物跡	12	中近世
土坑	382	中近世
溝跡	7	中近世
焼土跡	13	中近世 11、時期不明 2
集石	6	中近世
石組み遺構	1	近世
堀状遺構	1	近世以前

幻の「新慶寺」

飯喬道路建設路線は、独立丘陵（神之峯）の尾根と谷が複雑に入り組む中腹を東西方向に横断する形で計画された。この独立丘陵全体は神之峯城跡として埋蔵文化財包蔵地となっている。

調査は2ヶ年にわたり実施した。昨年度は調査対象地西側を、今年度は調査対象地東側と西側の一角を対象とした。

神之峯城主の国人領主の知久氏は、在城時に18ヶ所の寺院（知久十八ヶ寺）を建立したとの伝承がある。今年度の調査区には、十八ヶ寺のひとつ「新慶寺」の推定地が含まれていた。

今回、この推定地から近世の屋敷跡が発見された。この屋敷跡は掘立柱建物跡と土坑、集石で構成されていた。掘立柱建物跡には正方位を向く総

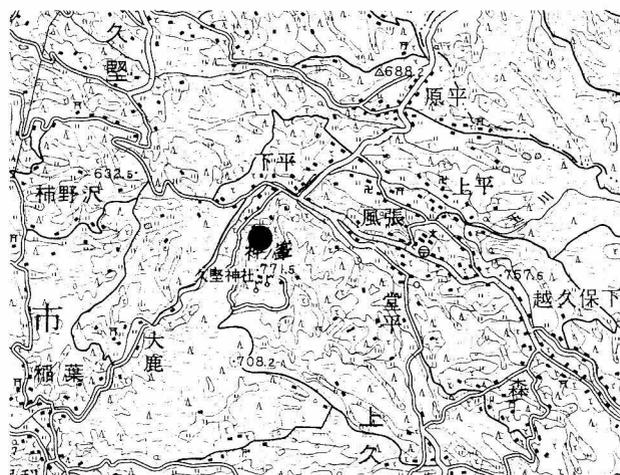


図 21 神之峯城跡の位置 (1:50,000 時又)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	中世（青磁碗、青磁香炉、瀬戸美濃産天目茶碗、平碗、常滑産の甕）近世以降（碗、皿）
石製品	中世（硯、砥石）、近世（砥石）
青銅製品	中世（銭貨）、近世（銭貨）
鉄製品	近世（釘）

柱の建物とやや軸が振れる側柱の建物とがある。前者の建物は3間×3間と2間×3間、後者の建物が1間×3間と2間×3間の規模で、両者ともに底面に礎盤石を設置した柱穴が確認されている。

この建物群はその規模と形状から、農民の屋敷跡と推測している。段丘の中央部には谷状の窪みがあり、屋敷跡はこの窪みを埋め、平坦にした後



図 22 神之峯城跡 調査区全景
(写真中央上、独立丘陵の頂部に本丸がある)



図23 3区 近世の屋敷跡 全景

につくられている。窪みを埋めた土からは15世紀の縁釉小皿や天目茶碗等の古瀬戸製品と常滑の甕が出土し、屋敷跡構築以前に3-1区で遺構が存在したことも推測されるが、明確にできなかった。

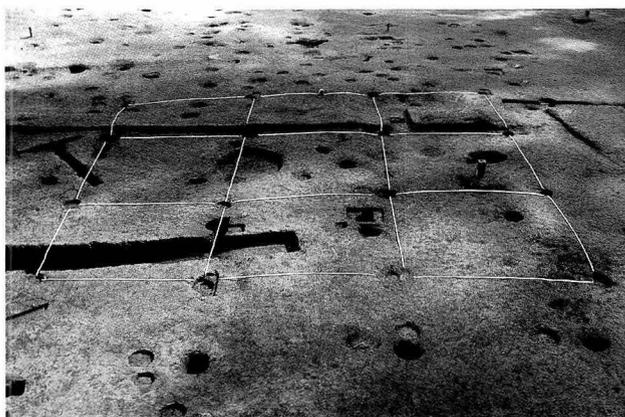


図24 3区 近世の掘立柱建物跡

尾根を断ち切る堀状の落ち込み

独立丘陵（神之峯）の頂部（主郭部）から約400 m離れた尾根上で、幅（検出面）約4 m、深さ（検出面～底面）約2.5 mを測る堀状遺構（SD 201）が確認された。SD 201はL字状の形状を呈し、尾根筋に平行し、横断する溝跡である。断面形状はV字形（薬研堀状）で、出土遺物はなく、溝跡埋没後に構築された石組み遺構の時期から、近世以前の所産と推測している。

このSD 201は、人為的に構築されたものか自然に形成されたものか判断し難い。SD 201周辺では城郭施設の曲輪等が確認されていない。また、断面形状は斜面下方側に緩やかに開き、地形的な視点からみると地殻変動等の自然要因で形成された可能性も指摘されている。

今後、主郭部から離れた場所で堀が確認された調査事例との比較・検討をし、SD 201の性格を明らかにすることが課題である。



図 25 2区 堀状遺構 全景

神之峯城の再検討

神之峯城跡の調査対象地はいままで城郭施設の存在が把握されていなかった。今回の地表面観察の結果、数多くの平坦地が確認され、神之峯城に伴うか否かの解明が調査の大きな課題であった。

神之峯城はいままで、城域が独立丘陵全体に及ぶものと理解されていた。2年間にわたる発掘調査の結果、この平坦地からは神之峯城に伴う遺構が確認されなかったため、調査対象地が城外であったと考えている。

また、今回知久十八ヶ寺のなかのふたつの寺院推定地（法心院、新慶寺）を調査した。知久氏の神之峯城在城時以前に、神之峯城の中腹に建物が存在したことは明らかとなったが、この建物が知久十八ヶ寺へと編入されかどうかは、不明である。

さらに、新慶寺の推定地では寺院と推定される遺構が確認されなかったこともあり、小字と伝承で語り継がれている知久十八ヶ寺の存在については再検討を要するものと考えている。

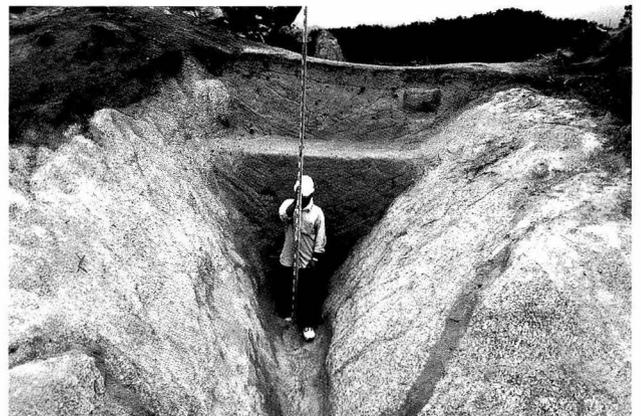


図 26 2区 堀状遺構断面

(6) かいがんじ いせき 海岸寺遺跡

(通常砂防事業 (海岸寺沢))

所在地及び交通案内：松本市入山辺字東桐原。

JR 松本駅の東約 6.6 km。

遺跡の立地環境：薄川左岸の大倉山西山麓の海岸寺沢の谷内に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
25.8.1～12.17	5,800 m ²	市川隆之 三木雅博

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	1	平安
土坑	56	平安～近世
溝跡	7	近世
石垣	32	近世

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	縄文、平安(土師器、須恵器、灰釉陶器)、中世(内耳鍋)、近世陶磁器
石器	縄文(石鏃)
その他	近世(人骨)

幻の「海岸寺」

遺跡の所在する桐原地区には平安時代中頃の県宝海岸寺千手観音立像が伝えられており、遺跡近くの海岸寺沢の地名からも、遺跡付近にかつて「海岸寺」と呼ばれる寺院が存在した可能性が想定されていた。

この千手観音像を祀る観音堂には元和三年(1617)の棟札も伝えられており、そこには奥の院から観音堂を移し、あわせて「下々田五畝四歩畔共」に寄進する旨が記載されている。ここに記載される奥の院は、海岸寺沢の上流 500 m ほど登った海岸寺経塚が所在する弘法平に比定されて

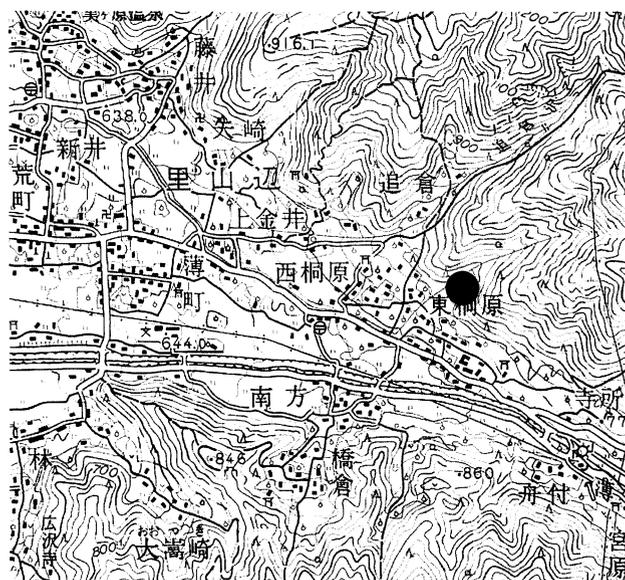


図 27 海岸寺遺跡の位置 (1:50,000 和田)

おり、平安時代に山寺として始まり、時代と共に施設が移転したことが推測される。しかし、「海岸寺」の伽藍配置や変遷については不明な点が多い。

海岸寺遺跡は平成 20 年度に県営畑地帯総合土地改良事業の幹線農道建設に伴って松本市教育委員会が発掘調査し(松本市教育委員会 2010『桐原城址 海岸寺遺跡』)、さらに海岸寺沢の砂防ダム建設計画に伴って平成 24 年度に松本市教育委員会が遺跡範囲確認の試掘調査を行っている。試掘調査では礎石建物跡と池跡を検出し、この試掘地点は保存されることとなった。また、遺跡範囲は平坦地群全体に及ぶ可能性が想定され、保存地区より下方のダム建設予定地については、松本市教育委員会と長野県教育委員会、松本建設事務所の協議により長野県埋蔵文化財センターが発掘調査を本年度から実施することになった。

本年度の調査成果

本年度は、ダム本体及び砂堆範囲のなかで遺跡内を縦断する市道の北西半分と海岸寺沢内、及び付け替えの市道部分を対象とした。遺跡の地形は海岸寺沢沿いに狭い氾濫原があり、調査地の大部分は段丘上の緩傾斜地となる。氾濫原内を含めて石垣を伴うほぼ水平な平坦地が連続し、建物を建てるための造成の可能性も想定されていた。

調査は平坦地毎にトレンチを設定し、表土を除



図 28 海岸寺遺跡平坦地

去して遺構の有無を確認した。遺構が確認されない場合は地山まで達するトレンチを入れて平坦地の盛土層の構造を把握し、盛土層の下で遺構が確認された地点は盛土層を除去して下層の遺構精査を実施した。

大部分の平坦地では遺構は検出されず、遺物出土もわずかであった。盛土は礫混じり土を盛った上に礫の少ない土を盛る構造が共通して捉えられ、盛土層中に遺構面は確認できなかった。一方、ダム本体が建設される予定地では近世の土坑が数基検出され、遺跡内の下方の道路部分では、埋土から平坦地造成以後と思われる側臥屈葬の土坑墓や土坑、平坦地の盛り土層下で平安～戦国時代と思われる柱穴跡・土坑、平安時代の竪穴住居跡を検出した。また、ここでは盛り土層下に残る旧表土と思われる黒色土層から内耳鍋が出土し、現景観の平坦地群は近世に造成されたと推測された。ただし、盛り土層や検出面からは近現代も含めて陶磁器はわずかししか出土せず、直接造成時期を示すと思われる遺物はない。

今後の調査へ向けて

本年度の調査では「海岸寺」にかかわる遺構は検出されなかったが、同じ平坦地群の続きとなる松本市教育委員会調査地点との関係の把握は課題として残された。松本市教育委員会が検出した礎石建物跡が元和三年（1617）の棟札に記載される移転した観音堂とすれば、併記される寄進水田が今回の調査地点の一部に該当することも考えられる。さらに、造成以前の遺構が存在する可能性もあり、これらの課題の解明を進めていきたい。

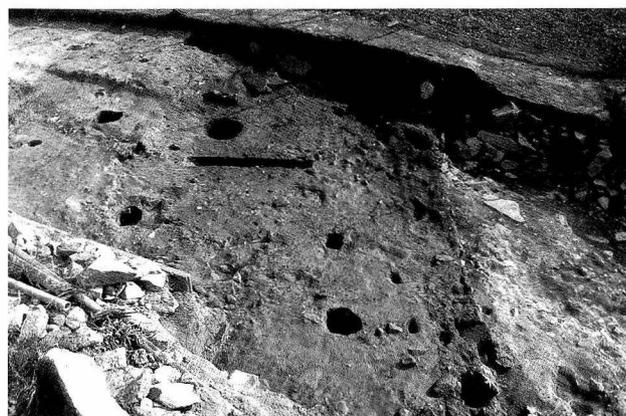


図 29 平安時代竪穴住居跡

ひがしやま いせき (7) 東山遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市伴野。

国道 142 号佐久南 I.C 入口から南西へ約 0.4 km。

遺跡の立地環境：八ヶ岳北東麓の小扇状地上。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
25.4.12～4.30	640 m ²	若林 卓 伊藤友久 栗林幸治 宮村誠二

検出遺構

遺構の種類	数	時期
溝跡	1	中世以降

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・石器	縄文～弥生土器、須恵器、石鏃

おおさわ やしき いせき (8) 大沢屋敷遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市大沢。

国道 141 号本新町交差点から西へ約 1.3 km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸、大沢川が形成した

扇状地上に立地。標高 704 m。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
25.11.7～11.27	100 m ²	若林 卓 伊藤友久 栗林幸治

検出遺構・出土遺物

遺構の種類	数	時期
土坑	4	縄文後期
遺物の種類	時期・内容	
土器・石器	縄文土器、石鏃、剥片	

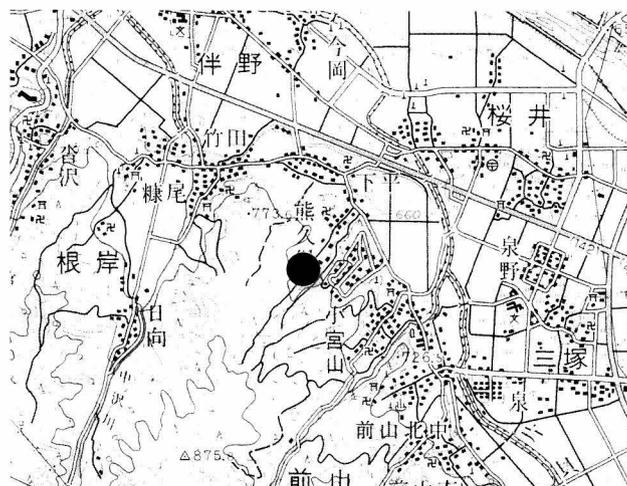


図 30 東山遺跡の位置 (1:50000 小諸)

中世以降の溝跡の延長部分を確認

本年度は標高 686 m 前後の市道 25-13 号線下を調査し、過去の調査で発見された溝跡の南側延長部分を検出した。出土遺物から、中世以降の所産と考えられる。

また、今回の調査によって、この溝跡が市道下で消失していることがわかった。耕作地の造成等によって削平されたと考えられる。



図 31 土坑の調査風景

扇状地上に残された縄文時代後期の土坑群

平成 23・24 年度の調査で、縄文時代後期の遺物包含層と円形に配列する土坑群などが確認されている。本年度はこれらの土坑群の南西側に隣接する部分が対象となり、土坑 4 基を検出し、縄文時代後期の土器片や石鏃・剥片が出土した。

新たに発見された土坑群は、これまでの調査で確認された遺構との関連が想定され、縄文時代後期の所産である可能性が高いと考えられる。

こやま かみ いせき (9) 小山の神 B 遺跡

(中部横断自動車道関係)

所在地及び交通案内：佐久市小宮山字小山の神。

県道 145 号線小宮山入口から南西へ約 1 km。

遺跡の立地環境：八ヶ岳北麓から北東に延びる丘陵

の南東斜面に立地し、標高 710～735 m。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
25.8.29～12.16	6,250 m ²	若林 卓 伊藤友久 栗林幸治

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	9	平安
土坑	13	縄文、平安
溝跡	4	平安以降
焼土跡	5	平安以降

八ヶ岳の北麓から幾重にも延びる丘陵のひとつに本遺跡は立地している。平成 23 年度の発掘調査では、丘陵頂部の南東側へ緩やかに傾斜した部分で、縄文時代前期の竪穴住居跡 14 軒が確認され、該期の集落が営まれていたことが明らかとなった。

本年度の調査対象範囲は、平成 23 年度調査区



図 33 調査区全景 (南東上空から)



図 32 小山の神 B 遺跡の位置 (1 : 50,000 小諸)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	縄文、平安、中世
石器・石製品	縄文 (石皿、石鏃、打製石斧)、中世以降 (五輪塔水輪)
金属製品	平安 (鉄製品)、中近世 (銭貨)

の南東側に隣接する丘陵頂部端から裾部にかけてである。調査の結果、丘陵の頂部では土坑 5 基と前回調査で確認した溝跡 2 条の延長部分が検出された。中腹部から裾部では平安時代の竪穴住居跡 9 軒を発見した。

縄文時代前期集落域の南東境の調査

丘陵頂部で検出された土坑 5 基は袋状を呈し、出土遺物、分布状況から、前回確認された縄文時代前期集落に伴うものと考えられる。今回の調査で竪穴住居跡は確認されなかったが、丘陵頂部端とやや急傾斜となる中腹部との境で遺構が途絶



図 34 縄文時代前期の土坑群



図 35 平安時代の住居跡 SB 16 (左)・SB 17 (右)
え、ここが縄文前期集落域の南東端と推測される。

南東斜面に広がる平安時代の集落

検出された平安時代の竪穴住居跡は、総数9軒を数える。9軒は丘陵南東斜面の中腹部から裾部にかけて、2~4mの標高差をもって上中下の三列に分かれて分布する。上列は標高717.5m付近に2軒(SB 15・20)、中列は713.5m付近に3軒(SB 16・17・21)、下列は711m前後に4軒(SB 18・19・22・23)が、それぞれ位置する。

中列に位置するSB 16とSB 17は重複しており、南東側のSB 17を切ってSB 16が構築されたことが判った。また、上列のSB 15は増改築が行われ、北東側に拡張するとともに、旧住居部分を埋めて新たに床を形成していた。旧カマドは床下に封じられ、拡張部分に新たなカマドを構築していた。

下列のSB 19は、本体部分の南西側に、本体床より20cm高まったテラス状の広い張出部をもつ。旧カマドや貼床は確認されなかったものの、増改築が為された可能性も考えられる。



図 36 SB 19 カマド

推定を含めてであるが、上列、中列、下列の各区域で増改築や同位置での新築が行われていることは、この三区域が住居建築場所として固定化していた状況を推測させる。本集落の集団成員が3グループに分かれ、各々のグループごとに居住域が定まっていたのではあるまいか。各住居跡の詳細な時期を特定したうえで、改めて検討したい。

今回の調査では、平安時代の当地域におけるカマドの構築と廃絶に関する好資料が得られた。

カマドはほとんどの場合、住居の山側壁(北西壁)に付設されている。SB 21のカマドは袖石上に架した天井石、そして支脚石が残る。また、SB 19のカマドはとくに煙道の遺存状態が特筆される。煙道は、燃焼部上の壁面を溝状に掘り込んで左右に側壁石を連ね、その前面に蓋石を積み上げている。こうした煙道構造が床面から約80cmの高さまで残っていた。

一方、SB 22では、火床被熱部と袖石抜取痕が検出されたのみで、カマド構築材は全く残っていなかった。また、SB 15旧カマドは、火床部や周囲に、大きさのほぼ揃った土器片が集中していた。両者ともカマド廃絶に伴う儀礼行為を示す例と理解する。

確認された平安時代の集落は10世紀前半を中心とした時期が考えられる。小河川に臨む山間の集落ではあるが、東方の片貝川流域の沖積地から1kmほどしか離れていない。本集落の成立契機については、山よりもむしろ平地との関わりを視野に入れて考える必要があるだろう。今後、発掘資料の分析を進めるとともに、周辺の該期集落の動向をふまえて追究すべき課題である。



図 37 SB 37 カマド

たかお いせき たかお
(10) 高尾 A 遺跡 高尾
 こふんぐん ごうふん
古墳群 5 号墳

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市前山字高尾。

中部横断自動車道佐久南 IC から南へ約 2 km。

遺跡の立地環境：八ヶ岳北麓から北東に延びる丘陵

の南東斜面に立地。標高約 730～770 m 前後

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
25.5.27～9.4	6,810 m ²	若林 卓 伊藤友久 栗林幸治 宮村誠二

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	1	縄文
古墳	1	古墳
溝跡	1	古代以降

遺跡の概要

高尾 A 遺跡は佐久市南部の千曲川左岸、八ヶ岳から北東に伸びる丘陵の南東斜面に立地する。

本遺跡は従来から弥生時代～平安時代の遺物散布地として知られていたが、当センターが平成 21 年度に実施した確認調査において旧石器時代の石器が出土し、また、平成 23 年度の本格調査でも、沢跡と考えられる地点で旧石器時代の始良丹沢火山灰降灰以前（約 2.5 万年以前）の石器群が出土したことから、この地での人類の活動時期がより遡ることが明らかになった。

本年度の調査対象地では、平成 23 年度のトレンチ調査で、縄文時代の竪穴住居跡と考えられる遺構などが確認されていた。本年度は、さらに、調査対象地で古墳が新たに発見され、その調査を実施した。

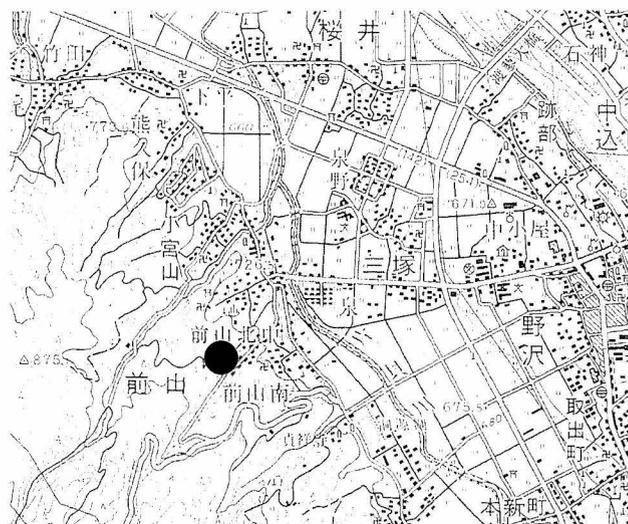


図 38 高尾 A 遺跡の位置 (1:50,000 小諸)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文、古墳～古代 (土師器・須恵器)
石器	縄文 (石鏃、剥片、碎片、敲石)
骨類	古墳～古代 (人骨・菌)

縄文時代前期の竪穴住居跡

竪穴住居跡は調査対象地の東端に位置する。遺構の南半は耕作地の造成等によって削平されていた。残存する竪穴住居跡の平面形は、隅丸方形を呈し、残存部の規模は東西約 4.4 m、南北約 2.8 m を測る。検出面からの深さは最も残りの良い部分で約 0.7 m である。床には柱穴 4 基のほか、炉跡とみられる焼土面が認められた。

竪穴住居跡から出土した遺物には縄文時代前期前半の土器片や石器 (石鏃、敲石) のほか、玦状耳飾も認められた。このことから、竪穴住居跡の時期は縄文時代前期前半の所産と考えている。



図 39 竪穴住居跡

なお、本遺跡の近辺には、同じ立地条件の小山の神B遺跡があり、平成23年度の調査で縄文時代前期の竪穴住居跡や貯蔵穴などが検出されている。佐久地域の縄文時代前期集落の動向を考える上で、両遺跡の関連も今後の課題である。

未周知の古墳の発見

本年度の調査により、調査対象地には未周知の古墳が存在することが分かった。

古墳は墳丘径約9mの円墳で、南東部分が耕作地等の造成によって大きく失われていたものの、外護列石や周溝の一部が残存していた。周溝は墳丘周囲を円形に巡り、最大幅約3mを測る。検出面での規模から周溝の外径は15mほどであったことが想定できる。

主体部は南に開口する横穴式石室である。天井が失われ、壁体も1~3段が遺存するのみであるが、側壁の外周には多量の川原石を用いて裏込めを施していることが確かめられた。

横穴式石室は、側壁に組み込まれた立柱石によって、内部の空間を玄室と羨道とに分ける構造である。玄室は中ほどで幅が最も広がる「胴張

り」と呼ばれる形態を有している。玄室の規模は長さ2.1mで、幅は奥壁部分が0.9m、玄室の中ほどが1.3mである。羨道は残存長が1.5mを測る。玄室床には5~10cm前後の礫が敷き詰められている。

本墳は石室の構造や規模からみて、7世紀後半~8世紀に築かれたと考えられる。

遺物は周溝と玄室から土器類が少量出土した。このうち、周溝から出土した須恵器坏などは古墳の築造時や追葬時のものである可能性がある。一方、玄室の床から約30cm上位で出土した土師器坏は平安時代のものである。ほぼ完形であり、意図的に石室内に持ち込まれた可能性が高い。平安時代に石室が再利用されたことが考えられる。また、玄室から人骨・歯が出土した。床より5~10cm浮いているため、追葬あるいは再利用に伴うものと推測される。

本墳の周辺には、従来から高尾古墳群が知られており、1~4号墳の4基が登録されている。本墳については、発掘終了後、佐久市教育委員会により高尾古墳群5号墳として新規登録の手続きが取られた。



図40 新発見の古墳（高尾古墳群5号墳）

や で か わ だ い は ち い せ き (12) 矢出川第Ⅷ遺跡

(県営畑地帯総合土地改良事業)

所在地及び交通案内：南牧村野辺山。

JR 野辺山駅から南約 2 km。

遺跡の立地環境：八ヶ岳東南麓の火山性扇状地末端付近、野辺山高原南部、飯盛山の裾部緩斜面
標高は、1,350 m。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
H 25.10.1 - 12.4	600 m ²	谷 和隆 前田一也

検出遺構

遺構の種類	数	時期
ブロック	3	旧石器
陥し穴	1	中世

矢出川遺跡（第Ⅰ遺跡）は、1953年日本で初めて旧石器時代の細石器が発見された遺跡として有名である。矢出川第Ⅷ遺跡は、第Ⅰ遺跡から約 1.7 km 南西に位置し、1979～1981年に行われた調査の際、旧石器時代の槍先形尖頭器、ナイフ形石器などが出土している。

農道拡幅工事に伴い平成 24 年度に南牧村教育委員会による試掘調査が行われ、旧石器時代の遺物が確認されたため、今年度本発掘調査を行うこととなった。農道拡幅範囲のうち遺物の出土が予想される幅 4 m、長さ 150 m の範囲の調査を行った。

旧石器時代のブロック

遺跡の層序は、上から順にⅠ層耕作土、Ⅱ層黒褐色土、Ⅲ層黒褐色土とローム層の漸移層、Ⅳ層黄褐色ソフトローム、Ⅴ層黄褐色ハードローム層である。石器はⅤ層上部から出土した。Ⅰ～Ⅴ層までの深さはおよそ 1.2 m である。なお、調査区の大部分は舗装路の碎石によりⅤ層上面付近まで

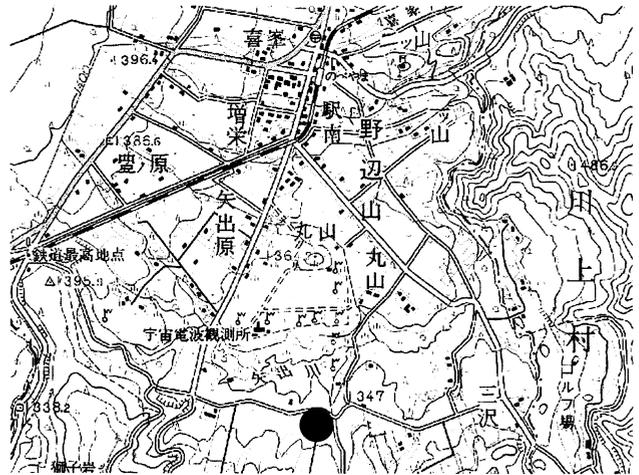


図 44 矢出川第Ⅷ遺跡の位置 (1:50,000 八ヶ岳)

出土遺物

遺物の種類	時期内容
石器	ナイフ形石器、貝殻状刃器、石刃ほか

削平されていた。

177 点の石器が出土した。器種組成は、ナイフ形石器 4 点、貝殻状刃器 2 点、石刃 5 点、石核 9 点、剥片 114 点、碎片 43 点である。石材は黒曜石 153 点、水晶 23 点、頁岩 1 点である。

旧石器時代の遺物は、調査区北側約 40 m の範囲に分布し、3ヶ所のブロックが確認された。各ブロックは調査区外へと広がるため、全体の規模が不明だが、第 1 号ブロックは直径 5 m 以上の規模をもつ。

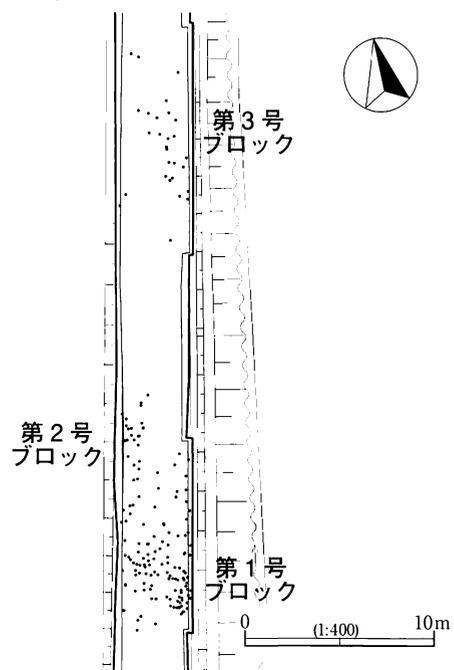


図 45 旧石器時代の遺物分布状況

野辺山高原最古の石器群

近接する第1・2号ブロックは黒曜石製石器を主体とする。石刃や縦長剥片を目的剥片とする剥片剥離が確認できるが、打面調整や頭部調整がなく、形状の規格性に乏しい。

これらの特徴から、本石器群の時期は始良丹沢火山灰降灰（約2.5万年前）以前と考えられる。これまで野辺山高原では、最終氷期最寒冷期の約2.2万年前の石器群が最古と考えられていたが、今回の調査により同地域における遺跡の開始時期は、約3万年前まで遡ることが明らかとなった。

水晶製石器のブロック

第1・2号ブロックの北10mに位置する第3号ブロックでは水晶製の石器がまとまって出土した。黒曜石製石器が含まれることと出土層位が、第1・2号ブロックと共通することから同時期と考えられる。野辺山高原では水晶製の細石器や石鏃、ナイフ形石器が採集されていたが、発掘調査によるまとまった出土事例は少なく、黒曜石に比べてはるかに利用頻度が低い。

今回、野辺山高原の旧石器時代開始期の水晶製石器がまとまって出土したことは、水晶がどのように利用されていたかについて、重要な資料を提示することとなる。

中世の陥し穴を調査

調査区南端付近から陥し穴が1基検出された。長さ3.7m、幅1m、深さ1.2mの規模を測り、遺構の底からは7ヶ所の逆茂木痕が確認された。埋

土中の遺物の発見はないが、逆茂木材の一部が2ヶ所から出土した。

遺構の規模、V字状の横断面形状、鋭い掘り具と見られる掘削痕、直接打ち込まれている逆茂木などの特徴から中世に造られた陥し穴であると推測される。

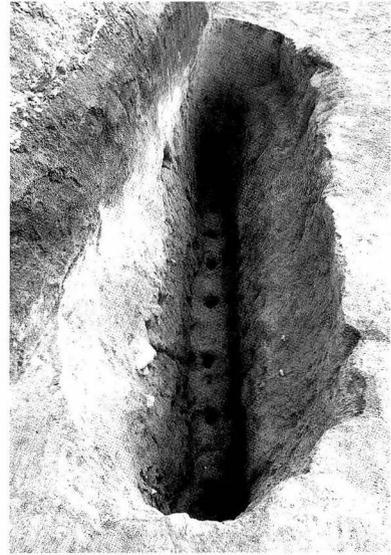


図46 中世の陥し穴

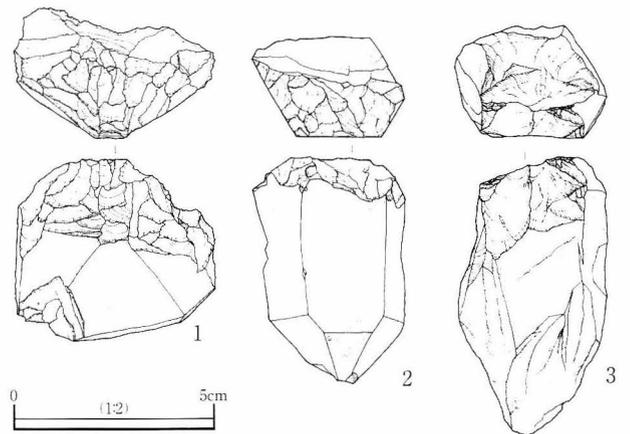


図47 水晶製石器 (1~3 石核)

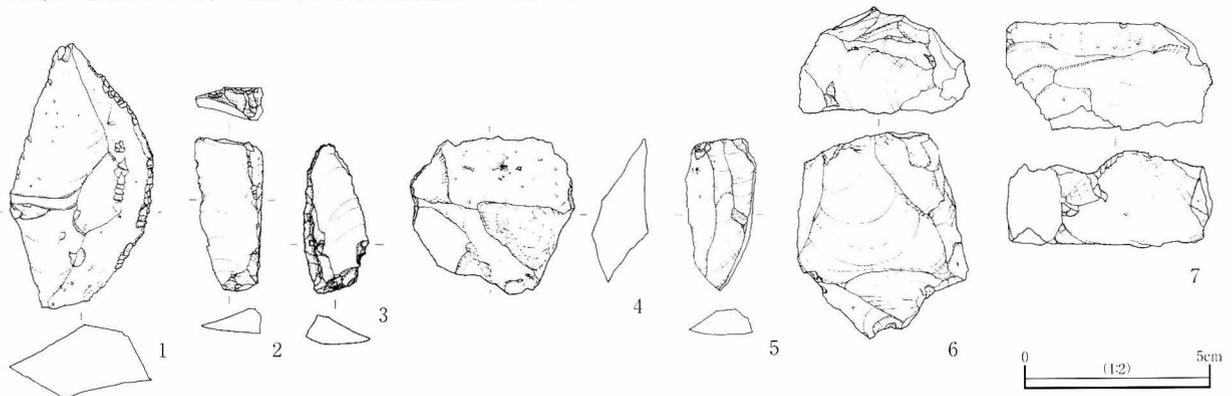


図48 黒曜石製石器
(1~3 ナイフ形石器、4 貝殻状刃器、5 石刃、6~7 石核)

Ⅲ 整理作業の概要

遺跡名	所在地	事業名	整理の内容（作業）	整理中の主な成果
びわこ 琵琶島	中野市	県道豊田中野線	遺構図修正、仮図版レイアウト、 遺物の接合、復元	古墳時代の土坑から出土した鉄製品は、 X線写真撮影の結果、「ヤリガンナ」で あることが判明した。また、出土土器 は、接合、復元するなかで、弥生時代 中後半の栗林式土器でも古段階に属す るものが多くを占めることが分かって きた。
にしちかつ 西近津	佐久市	中部横断自動車道	遺構図修正、デジタルトレス、 遺物選別・接合、復元、実測	本文参照
すほうばた 周防畑			遺構図修正、デジタルトレス、 遺物実測・トレス、版組、原稿 執筆、報告書編集刊行。	弥生時代と奈良・平安時代の集落遺跡 である。弥生時代の集落は低湿地を挟 んで南北2ヶ所にある。南側の集落は 居住域と円形・方形周溝墓や土坑墓、土 器棺墓からなる墓域が隣接する。遺跡 周辺は佐久郡衙の推定地とされるが、今 回の調査では、奈良・平安時代の文字 関連資料や施釉陶器の出土は多くなく、 郡衙の中でも下層の人々の集落ではな いかと考えている。
もっだら 森平ほか			遺構図修正、デジタルトレス、 遺物選別、遺物実測・トレス、 写真撮影、原稿執筆、報告書編 集刊行。	本文参照
ちけ 地家			五輪塔の洗浄、注記、写真撮影、 台帳作成。木製品の照合、台帳 作成、水替え。	五輪塔については洗浄と注記を行った。 木製品は水替えを行うとともに、形状 による基礎的な分類を行った。今後、分 類、抽出作業を進めて、実測図作成等 を進めていく。

(1) 西近津遺跡群

(中部横断自動車道関連)

今年度の整理 21年度から整理作業を実施している。遺物では土器接合と修復がほぼ終了し、土器、石器、金属・骨製品の実測作業を進めた。遺構は図面修正とデジタルトレースを継続している。出土骨の鑑定、弥生土器、建物跡について、指導者を招聘し、また年代測定や樹種同定、鍛冶関連遺物分析を業務委託し、次年度の報告書刊行に備えた。

金属製品の整理 金属製品については、昨年度保存処理を終え、今年度は詳細な観察と実測作業を行った。金属製品は弥生時代から近現代に至るまでおよそ600点出土している。その9割以上が鉄製品であり、青銅製品は34点と1割に満たない。今回、実測と観察を終えた弥生時代の青銅製品と出土銭について概要を記す。

弥生時代の青銅製品 弥生時代の青銅製品は11点である。いずれも百余軒の大集落を成した弥生時代後期の所産と考えている。器種の内訳は銅釧9点、銅鏃2点である(表1・図49)。腐朽・欠損し小さくなった資料が多いが、往時の光沢と金属色を残す資料もある。

銅釧はすべて破片であり、主に弥生時代後期の竪穴住居跡の埋土から出土した。特別な出土状態を示す資料はない。

形態はいわゆる帯状円環型の铸造品で、幅が約10mmで推定径60mm前後のもの(1・3・5・7~9)と幅が約6mmで推定径44~52mmの小ぶりなもの(2・4・6)がある。円弧状の形状を留めている資料が大半であるが、故意に平らに延ばされている資料(1・6)もある。また欠損した部分に折り曲げによる切断痕とみられるわずかな膨らみが見受けられる資料(9)や、小孔を穿っている資料(3)もある。いずれも使用後に再加工された状況を示すものである。特に伸ばされたり、切断されたりした状態は銅釧の補修に伴う加工痕というより、新たな製品へ再生させるための痕跡と考えられる。

集落出土の銅釧片は、本来の連結着装された装

身具の役割から脱し、集落における新たな役割、例えば祭祀具などとして利用、廃棄したとすると研究がある¹⁾。佐久平は銅釧の出土数が多いことで知られている地域である。当遺跡南に隣接する周防畑遺跡群の中部横断自動車道用地内で検出された土坑墓からは連結着装された銅釧が出土している。居住域と墓域で異なる出土事例は、弥生時代後期におけるこの地域での銅釧の流通、利用、再生を考える上で、新たな発見といえよう。

遺跡出土銭 当遺跡では18点の銭が出土している。内訳は日本銭として皇朝十二銭2点、江戸4点(うち1点は鉄銭)、輸入銭として北宋銭9点、明銭1点、ほかに不明1点である。

皇朝十二銭は「神功開寶」(12・初鑄765年)と「隆平永寶」(13・初鑄796年)である(表1・図49)。「神功開寶」は台地上を流れた自然流路SD8006の埋土下層の砂層より出土している。流水の影響もあり、やや劣化が進んでいるが字形などは鮮明である。この流路は弥生時代後期や古墳時代後期の竪穴住居跡、古墳時代前期の古墳周溝などを破壊して、田切り地形と同方向に北東から南西へ流下している。流路の形成時期は古墳時代末から奈良時代と想定される。銭の出土した下層からは弥生時代後期から平安時代までの土器などが混在しているため、銭の最終的な廃棄の様相は判然としない。

「隆平永寶」は台地最北端の8区で検出されたSK8210から出土している。SK8210は南北2.36×東西1.98m、深さ1.18mときわめて大形の土坑で、底面は小さくすり鉢形を成す。銭は埋土中層より出土し、解体されたウシ・ウマ骨、須恵器横瓶片や坏片なども一緒に出土した。同様の大形土坑は集落全体で9基あり、出土土器から奈良時代から平安時代初め頃に掘削、利用されていたと考えている。

こうした大形土坑は、県内では佐久地方の奈良・平安時代の集落遺跡から40基以上検出されている。埋土からは本土坑のように土器や金属製品、石製品、動物遺体などが出土する場合が多く、その性格については呪術的な農耕祭祀に関わると

いう説と塵芥処理目的とする説がある⁽²⁾。また土坑の形状規模から同時期に栃木県などで報告されている「氷室」と想定される円形有段遺構と同じ性格であるという指摘もある⁽³⁾。

つぎに出土銭の集成研究からみると、皇朝十二銭は県内でこれまでに101点出土し、そのうち佐久地域（佐久市・小諸市・御代田町）では19遺跡34点の出土例がある⁽⁴⁾。特に浅間山南麓の台地に繁栄した古代集落からの出土が多く、当遺跡もその範囲にある大規模な集落遺跡である。この地域の集落遺跡では皇朝十二銭のほかに、陶硯、石製腰帯飾具などといった地方官衙に関連するような遺物の出土が豊富であることや、東国への玄関口に位置することから佐久郡衙や東山道の所在を推定する論考が多い。

これまでの佐久地域における調査では郡衙跡や道路跡は明確に発見されていない。当遺跡についても古墳時代後期から平安時代まで竪穴住居跡を中心として、比較的小規模な掘立柱建物跡が伴う集落形態であり、他府県に見られるような郡衙施設の発見は得なかった。

ただ「隆平永寶」が出土した大形土坑と似た円形有段遺構は、官衙遺跡や官衙関連遺跡あるいはそれらに近接した集落遺跡からみつかるという特徴を持つ。こうした特殊な遺構の性格について、形態や規模、銭などの出土状況など、多方面からの観察を加えることは、結果、遺構を保有した集落自体の評価にもつながっていく作業と考えている。

註

(1) 臼居直之 2000「再生される銅釧—帯状円環型銅釧に関する一視点—」『長野県埋蔵文化財センター紀要』8

(2) 花岡弘 1995「特異な土坑について—佐久平に見られる奈良・平安時代の塵芥処理用土坑—」『長野県考古学会誌』第75号

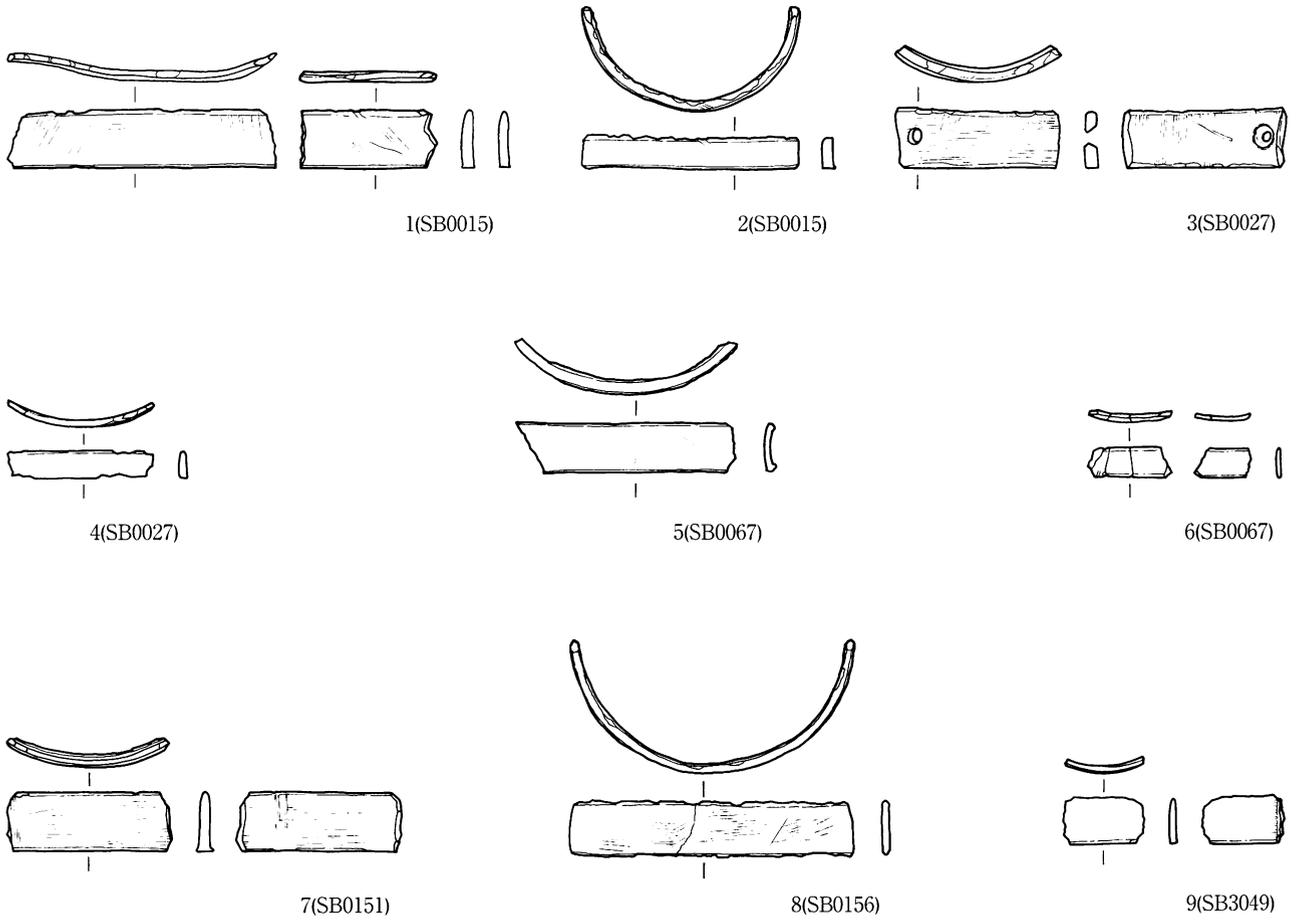
(3) 中山晋 1996「古代日本の「氷室」の実体—栃木県下の例を中心として—」『立正史学』第79号

(4) 西山克己 2011「信濃出土の古代銭貨の用いられ方とそれが意味すること」『長野県立歴史館研究紀要』第17号

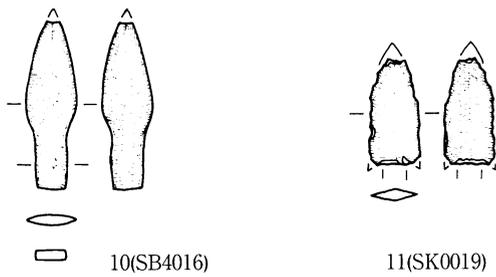
No.	遺物名	出土遺構	法量（保存処理後）				重量g	備考
			長さmm	幅mm	厚さmm	推定径mm		
1	銅釧	SB0015	53.0+27.0	11.5	2.0		6.48	同一個体、非接合。 二次加工あり。
2	銅釧	SB0015	42.5	6.0	2.5	44.0	2.50	
3	銅釧	SB0027	32.5	11.9	2.6	56.0	4.48	二次穿孔あり。
4	銅釧	SB0027	29.0	5.5	1.5	52.0	0.59	
5	銅釧	SB0067	44.0	10.0	2.3	62.0	3.40	
6	銅釧	SB0067	16.0+11.0	6.0	0.9		0.28	同一個体、非接合。
7	銅釧	SB0151	32.5	11.5	3.0	58.0	3.11	二次加工痕あり。
8	銅釧	SB0156	57.0	11.0	1.8	56.0	7.82	
9	銅釧	SB3049	16.0	9.0	1.5		0.75	二次加工、折り曲げによる切断痕あり。
10	銅鏃	SB4016	33.0	10.0	2.0		2.08	鏃身部は柳刃形。
11	銅鏃	SK0019	20.5	9.5	2.5		1.36	先端、茎部欠損。
12	銭貨(神功開寶)	SD8006	25.7	25.3	1.8		4.25	
13	銭貨(隆平永寶)	SK8210	24.9	24.9	1.8		3.09	

表1 弥生時代青銅製品と皇朝十二銭一覧表

銅釧



銅鏃



錢貨

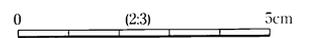


図 49 弥生時代青銅製品と皇朝十二銭

(2) 森平遺跡ほか

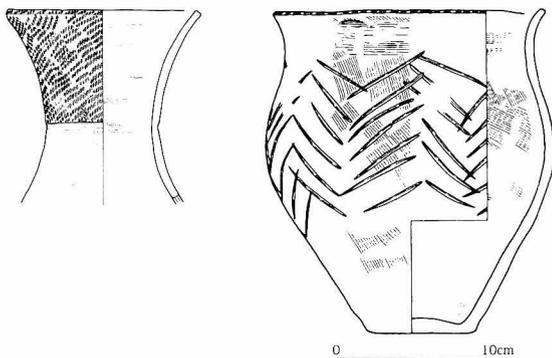
(中部横断自動車道関連)

森平遺跡、寄塚遺跡群、今井西原遺跡、今井宮の前遺跡について、平成19年度から整理作業を進めてきた。今年度は、遺構図面のデジタルトレース作業と遺物の垂直・水平分布図作成、土器図面の作成とトレース、各種観察表の作成、写真撮影等を進め、編集作業を経て報告書を刊行した。

森平遺跡・寄塚遺跡群

森平遺跡は湯川右岸の低位段丘(第1河岸段丘)に営まれ、弥生時代中期後半栗林2~3式を主体とし、後期までの時間幅をもつ集落で、竪穴住居跡22軒、掘立柱建物跡6棟が検出された。細別した時期ごとに数軒の竪穴住居跡と掘立柱建物跡からなる景観が復元され、うち半数程度には住居跡廃絶時の焼却が認められている。遺物では山梨県域を經由して駿河湾地方との関係が予想される有東式土器とその模倣品、千曲川の下流域との関係が推測される完形の緑色凝灰岩製の太型蛤刃石斧、扁平片刃石斧等、周辺地域との交流を反映するものもみられた。また、本遺跡で最も古い住居跡の床面に伏せられていた甑内から出土した歯が渡来系弥生人のものと鑑定されたことや、壺の口縁部と頸部に施されていた疑似縄文がオオバコの花茎の穂先を回転施文した結果付いたことが判目したことも注目される。

一方、森平遺跡の対岸の河岸段丘上に立地する寄塚遺跡群では、森平遺跡に先行する弥生時代中期の竪穴住居跡が1軒検出されている。



左：SK 001-502(有東式壺)、右：SB 11-474(駿河湾系壺との折衷型)

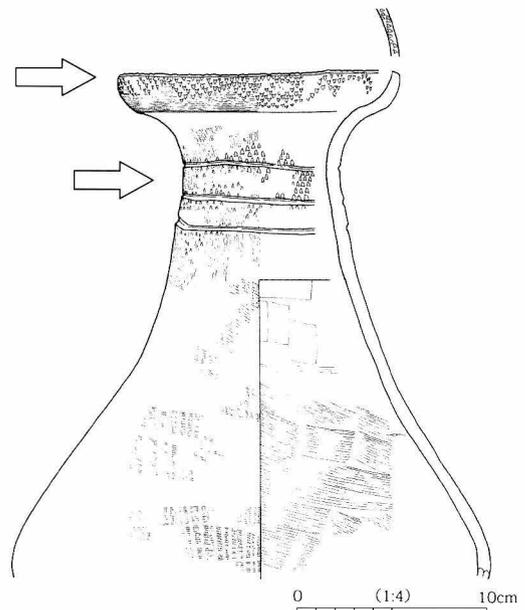
図50 森平遺跡出土有東式とその類例

今井西原遺跡 今井宮の前遺跡

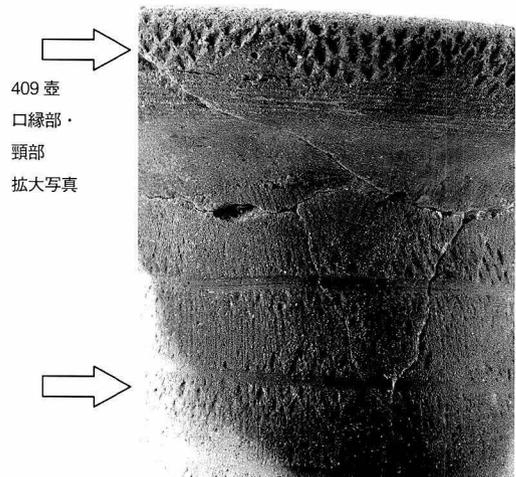
寄塚遺跡群の南、湯川と千曲川に挟まれた台地上に立地する今井西原遺跡では、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒と、古代の溝跡・流路や古代以降の掘立柱建物跡、近世の東西に伸びる流路が検出され、土地利用の変遷の一端が追えた。

さらに南にある今井宮の前遺跡では、17世紀前半の大形土坑が検出され、水利に乏しい台地上での工夫を反映した灌漑用井戸跡と考えている。

今回の4遺跡の報告の結果、佐久平における弥生時代の低地の集落景観と古墳時代以降の台地上での土地利用の様相とが明らかになったといえよう。



森平遺跡 SB 08-409 壺



409 壺
口縁部・
頸部
拡大写真

オオバコ文拡大写真

図51 オオバコを回転施文した土器

IV 普及公開活動の概要

(1) 国補事業の概要

平成 25 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金

1 体験学習等メニュー

①夏休み考古学チャレンジ教室の開催

実施日：8月9日（金）・10日（土）

内 容：埋蔵文化財センターの業務を公開し、文化財保護思想の啓発をはかる。

- ・埋蔵文化財に関わる業務の体験と見学
- ・発掘調査に伴う出土遺物の展示
- ・体験教室（土器接合・拓本・石器体験・石のアクセサリー作りほか）

参加者：346 名



図 52 勾玉づくりにチャレンジ



図 53 黒曜石の模擬石器で切れ味体験

②発掘体験の実施

実施日：7月29日（月）・10月5日（土）・
10月23日（水）

内 容：遺跡の発掘体験を通して、地域の文化財に関心をもち、大切さを学ぶ。

参加者：長野日本大学長野小学校 32 名

長野市塩崎地区ほか 50 名

長野県北部高等学校 11 名



図 54 はじめて遺跡を掘る参加者



図 55 出土土器を洗いながら学習する

2 広報・資料作成メニュー

①信州の遺跡

【第 3 号】 9 月 30 日（月）発行

内 容：県内の遺跡情報を掲載し、文化財を身近に感じ、大切さを考える。

- ・最新報告書から（中野市千田遺跡、松本市横田古屋敷遺跡、辰野町荒神山おんまわし遺跡）
- ・掘ってわかった信州の歴史（長野県の遺跡発掘 2013）
- ・埋文キーワード（土器の復元）
- ・特集 文化財の公開と活用の取り組み
- ・埋文ほっと情報（佐久市大豆田遺跡Ⅳ、長野市塩崎遺跡群）

- ・長野県教育委員会だより（県内の発掘調査状況）佐久穂町満り久保遺跡、長和町和田峠遺跡群、飯田市恒川遺跡群新屋敷地籍
- ・考古学の窓（古代の土器作りと粘土採掘）

【第4号】 2月21日（木）発行

内 容：

- ・最新調査成果から（松本市出川西遺跡、長野市塩崎遺跡群、茅野市永明寺山古墳、安曇野市穂高古墳群）
- ・埋文ニュース1 遺跡の活用について
ク 2 「長野県の遺跡発掘2014」
- ・埋文キーワード（発掘現場の測量）
- ・特集 文化財の公開と活用の取り組み（安曇野市豊科郷土博物館、御代田町浅間縄文ミュージアム）
- ・史跡トピックス（恒川官衙遺跡の史跡指定、松本城の史跡追加指定の答申が出される！、「体感！信州の文化財ガイドツアー」が行われました）
- ・ほっと情報（県内の発掘調査の状況）
長野市南宮遺跡、南牧村矢出川第Ⅷ遺跡、飯田市育良社付近遺跡
- ・考古学の窓（幕末の玩具？土製模造貨を発見）

②かがみちゃんと学ぼう ジュニアこうこがく

【第2号】 3月14日（金）発行

内 容：新しく歴史を学ぶ県内の小学生を対象に、遺跡や遺物を用いた学習の副教材。

- ・信州で大発見！！ 弥生時代の青銅器
- ・銅鐸・銅戈を調べよう
- ・銅鐸をつくる
- ・長野県の青銅器
- ・弥生土器
- ・博物館で青銅器を見よう！調べよう！

3 案内板・説明板メニュー

設置日：3月14日（金）

場 所：伊那市高遠町東高遠字若宮

内 容：国道152号伊那バイパス関連（東高遠若宮武家屋敷遺跡）についての遺

跡説明板の設置

協 力：長野県教育委員会 伊那市 伊那市教育委員会



図56 発掘調査地に設置した遺跡説明板

4 長野県の遺跡発掘2014

①速報展の開催

名 称：長野県の遺跡発掘2014

開催日：3月21日（金）～6月1日（日）

会 場：長野県立歴史館

内 容：平成25年度に長野県埋蔵文化財センター及び県内市町村が発掘調査した23遺跡約390点の出土遺物を展示・公開する。合わせて期間内、講演会・遺跡報告会を開催。

②遺跡報告会・講演会

開催日：3月22日（土）

報告会：1. 浅間山麓の弥生集落

2. 善光寺平周辺の弥生集落

講演会：「ヒミコ時代の信州と西日本」

講 師：工楽善通（大坂府立狭山池博物館館長）



図57 長野県の遺跡発掘 展示のようす

(2) 展示会・講演会

①長野県埋蔵文化財センター 30周年速報展

「掘ってわかった信州の歴史」

長野県埋蔵文化財センター速報展

「長野県の遺跡発掘 2013」

主催：長野県埋蔵文化財センター、長野県立歴史館、長野県伊那文化会館

<長野県立歴史館会場>

会期：平成25年3月16日(土)～6月2日(日)

来館者：15,237名

内容：昭和57年の設立から現在まで30年間に長野県埋蔵文化財センターが発掘した342遺跡のなかで、信州の歴史を塗りかれた出土品を展示公開した。

○30周年記念講演会 フードトーク&ミニコンサート

3月23日(土) 聴講者114名

講演会 演題：「縄文時代の食文化」

講師：渡辺 誠 名古屋大学名誉教授

フードトーク&ミニコンサート

渡辺 誠 名古屋大学名誉教授

会田 進 長野県考古学会長

美咲 長和町黒耀石親善大使

大竹憲昭 長野県埋蔵文化財センター調査部長

○埋文体験デー：5月3日(金) 参加者185名
歴史館の内外にブースを設け、土器洗いや測量機器・カメラ操作、拓本などの体験型イベントを実施。親子連れでにぎわった。



図58 30周年記念講演会 フードトーク



図59 伊那文化会館「埋文体験デー」土器の拓本体験

<長野県伊那文化会館会場>

会期：平成25年7月13日(土)～8月4日(日)

来館者：1,255名

内容：歴史館と同様の巡回展示。

○講演会

7月20日(土) 聴講者60名

演題：「縄文・弥生の木の文化」

講師：山田昌久 首都大学東京教授

○埋文体験デー：7月27日(土) 参加者60名

②県庁ロビー展

会場：長野県庁1階 玄関ホール

会期：平成26年2月17日(月)～2月21日(金)

内容：25年度の成果をパネルと出土品で紹介。

③「写真でみる長野県の遺跡発掘 2014」

会場：しなの鉄道屋代駅 千曲市民ギャラリー

会期：平成26年2月24日(月)～3月2日(日)

内容：「長野県の遺跡発掘 2014」プレイベント。
パネルと出土品で紹介。

共催：長野県立歴史館、千曲市教育委員会

④長野県埋蔵文化財センター速報展

「長野県の遺跡発掘 2014」

主催：長野県埋蔵文化財センター、長野県立歴史館、長野県伊那文化会館

<長野県立歴史館会場>

会期：平成26年3月21日(金)～6月1日(日)

内容：主に今年度調査した14遺跡と県内市町村が調査した9遺跡の出土品約390点を展示公開した。

(3) 現地説明会

県教育委員会との共催事業として、6遺跡で実施した。参加者は延べ567名であった。

①高尾A遺跡 高尾古墳群5号墳（佐久市）

8月3日（土） 57名 晴

新たに発見された古墳の横穴式石室と縄文時代前期の竪穴住居跡等を見学いただいた。未周知の古墳であったこともあり、炎天下のなかであったが、県外からの見学者もみられた。



図60 古墳石室の説明風景（高尾古墳群5号墳）

②神之峯城跡（飯田市）

9月28日（土） 48名 晴

山城の中につくられた掘立柱建物跡で構成される屋敷跡などを見学いただいた。駐車場から見学地までが離れていたため、歩いていただくこととなったが、見学者からは、多くの質問を受けるなど、関心の高さが感じられた。

③塩崎遺跡群（長野市）

10月5日（土） 213名 晴

弥生から平安時代の重なり合う竪穴住居跡、方形周溝墓、北信地域では初めての馬の埋葬事例などを見学していただいた。また、体験発掘も併せて実施した。ご家族で参加される方など、多くの方の参加をいただいた。

④浅川扇状地遺跡群（長野市）

11月16日（土） 183名 晴

古墳から古代の竪穴住居跡、中世の掘立柱建物跡や井戸跡を見学していただいた。出土した土器や石器のほかに、幕末の土製模造貨（一分銀）などを現場事務所で展示し、多くの見学者に興味深くご覧いただけた。



図61 説明に聞き入る参加者（塩崎遺跡群）

⑤南大原遺跡（中野市）

10月17日（木）～24日（木） 30名

地元の住民の方向けの現地公開として実施した。弥生時代の竪穴住居跡、礫床木棺墓、方形周溝墓などを見学していただいた。地元の歴史について、積極的に質問される姿がみられた。

⑥小山の神B遺跡（佐久市）

11月13日（水）～15日（金） 36名

現地公開として実施した、緩やかな斜面につくられた古代の竪穴住居跡、石組のよく残るカマド等を見学いただいた。短期間であったが、地元の遺跡調査例として、説明に興味深く聞き入っていただいた。

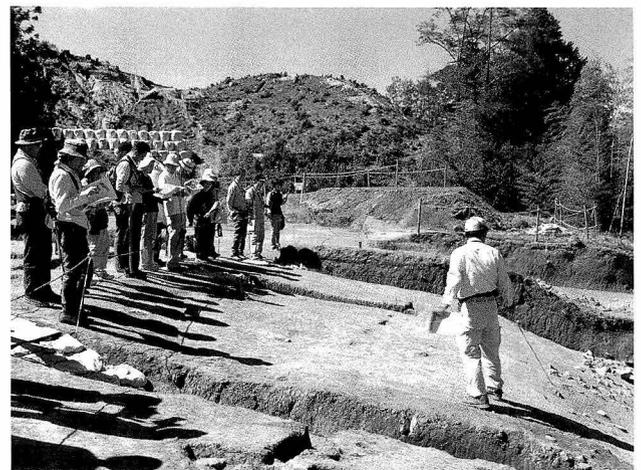


図62 屋敷跡の説明風景（神之峯城跡）

V 研修等の概要

(1) 講師招聘などによる指導

月 日	所属	職・氏名	指導内容
6月7・8日	東京都豊島区郷土資料館	学芸員 橋口定志	海岸寺遺跡の石垣調査法と寺院立地と山城の関係について 飯田市神之峯城跡の城域における空間構成について
6月20日 9月12日	伊那谷自然友の会	理事 松島信幸	神之峯城跡の地形環境について
11月11～13日 3月5～7日	京都大学	名誉教授 茂原信生	西近津遺跡群ほかの出土骨について
	総合研究大学院大学	准教授 本郷一美	
	獨協医科大学	技術職員 櫻井秀雄	
11月12日	佐久市教育委員会	須藤隆司	矢出川第Ⅷ遺跡の発掘調査について
	御代田町教育委員会	堤 隆	
12月5日	信州大学	教授 保柳康一	塩崎遺跡群の堆積土層について
12月10日	飯田市上郷考古博物館	館長 市澤英利	塩崎遺跡群の発掘調査について
1月27日	明治大学	教授 安蒜政雄	矢出川第Ⅷ遺跡の石器について
2月3～5日	京都大学	名誉教授 茂原信生	塩崎遺跡群の出土骨について
2月13日	御代田町役場	小山岳夫	西近津遺跡群ほかの弥生土器について
3月13日	別府大学	客員教授 宮本長二郎	西近津遺跡群の建物跡について
3月21・22日	大阪府立狭山池博物館	館長 工楽善通	西近津遺跡群ほかの整理指導

(2) 全埋協等への参加

期 日	会 議 名	開催地	参 加 者
4月24日	公共開発事業に伴う埋蔵文化財保護に係る関係者会議	塩尻市	上田典男 鶴田典昭 谷 和隆
6月20・21日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	草津市	会津敏男 大竹憲昭
6月21日	文化財保護行政市町村担当者会議	長野市	村山清治 岡村秀雄 宮村誠二
10月17・18日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会中部・北陸ブロック連絡会	新潟市	窪田久雄 岡村秀雄
10月24・25日	関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者職員共同研修協議会	八王子市 府中市	上田 真 水澤教子 柳澤 亮
10月30日	市町村埋蔵文化財担当者発掘調査技術研修会	松本市	谷 和隆 前田一也 宮村誠二
11月19日	関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者会議	千葉市	大竹憲昭
11月21・22日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	さいたま市	上田典男 岡村秀雄
1月8日	指導主事・専門主事会議	長野市	栗林幸治 三木雅博
2月5～7日	埋蔵文化財担当職員等講習会	宇都宮市	上田 典男
2月18・19日	博物館等関係職員研修会	千曲市	栗林幸治 前田一也 宮村誠二

(3) 研修および資料調査

期 日	参加者	場 所	内 容
6月10～14日	前田一也	奈良県	奈良文化財研究所 専門研修「建築遺構調査過程」
6月24～28日	栗林幸治	奈良県	奈良文化財研究所 専門研修「建造物保存活用基礎課程」
9月30日～10月4日	高津希望	奈良県	奈良文化財研究所 専門研修「三次元計測過程」
1月27・28日	谷 和隆 前田一也	東京都	明治大学博物館 「矢出川第Ⅷ遺跡に係る資料調査」
3月5日	黒岩 隆	東京都	首都大学東京 「南大原遺跡出土木製品の性格について」

(4) 学会・研究会などでの発表

月 日	派遣先	担当者	内 容
5月12日	長野県考古学会	大竹憲昭	総会における報告会「掘ってわかった信州の歴史」
5月25日	長野県立歴史館	鶴田典昭	「列島最古級の石器」(信州の遺跡講座)
6月13日	東信史学会更埴支部	水澤教子	「千曲川流域における縄文中期の東北系土器」
7月28日	長岡市立科学博物館	綿田弘実	「枋倉式土器と信州の土器」
10月11日	平穏土建	大竹憲昭 栗林幸治	「埋蔵文化財と私」
11月2日	下伊那教育会	町田勝則	「弥生時代の磨製石鏃をめぐって」
11月10日	上田市立信濃国分寺資料館	廣瀬昭弘	市民講座「縄文土器のはじまりと上田地方」
12月15日	飯田市上久堅まちづくり委員会ほか	河西克造	「上久堅地区の3年間における遺跡発掘調査の成果」
2月2日	長野市篠ノ井共和郷土を知る会、篠ノ井公民館	大竹憲昭	「長野県の遺跡を発掘する 塩崎遺跡群の発掘調査他」
3月12日	篠ノ井地区住自協	西 香子	「本年度発掘著差の概要と主な成果について」
3月30日	中野市立博物館・生涯学習課	黒岩 隆	「ふるさとレポート発表会」

(5) 市町村・関係機関などへの協力

月 日	依頼元	担当者	協力・指導内容
4月17日	篠ノ井地区住民自治協議会 篠ノ井史跡等ボランティアガイド会	大竹憲昭 谷 和隆	施設見学、体験道場
4月18・26日 5月14・15・18日 6月16日 9月23日 10月1日	長野県立歴史館	水澤教子	PEGを利用した保存処理に関する細部の技術指導

月 日	依頼元	担当者	協力・指導内容
6月9日	埼玉弥生土器観会	岡村秀雄 町田勝則 上田 真 柳澤 亮 内堀 団	佐久市西一里塚遺跡群ほか出土の弥生土器の資料調査
6月14日 7月30日 9月6日 11月6日 1月21日 3月19日	長野県教育委員会	窪田久雄 会津敏男 大竹憲昭 上田典男 岡村秀雄 町田勝則	県立歴史館のあり方検討会
6月19日 10月2日 1月10日 3月5日	長野県教育委員会	上田典男 谷 和隆	長野県の埋蔵文化財行政の整備充実に関する協力者会議
6月28日	長野商工会議所篠ノ井支部	大竹憲昭	施設見学
7月11日	長野県教育委員会	上田典男	県宝「柳沢遺跡出土品」の保存活用に係る指導
7月29日	篠ノ井西部郷土史会	上田典男 廣瀬昭弘	佐久市塩崎遺跡群発掘調査の現地見学
8月27日	大正大学	大竹憲昭 上田典男 廣瀬昭弘	施設見学および長野市塩崎遺跡群発掘調査の見学
8月30日	松本市教育委員会	河西克造	虚空蔵山城跡発掘調査および井川城発掘調査の現地指導
9月12日	長野建設事務所	鶴田典昭	浅川扇状地遺跡群発掘調査の現地見学
9月24日	北信高等学校長会	大竹憲昭	施設見学
9月25日	長野市立信里小学校	上田典男 西 香子	長野市塩崎遺跡群発掘調査の見学
10月23日	長野県北部高等学校	鶴田典昭	浅川扇状地遺跡群発掘調査の現地見学
11月15日	塩崎地域の文化遺産を守る会	上田典男 西 香子	長野市塩崎遺跡群発掘調査の見学
12月9日	塩崎地域委員会	西 香子	長野市塩崎遺跡群発掘調査の見学
2月5日	佐久市教育委員会	市川隆之	大豆田遺跡Ⅳ出土の陶磁器類の鑑定
2月17日	樋口誠二	上田典男	センター保管の資料見学
3月24日	村上市教育委員会	水澤教子	春木山遺跡出土土器（大木8a・8b）の型式学的理解・分類について

(6) 学校関係への協力・指導

期 日	学校名	内容	担当者
4月16日	北相木村立北相木小学校	社会科見学	大竹憲昭
4月25日	長野市立鍋屋田小学校	出前授業	柳澤 亮 長谷川桂子
5月14日	北相木村立北相木小学校	社会科見学	大竹憲昭
5月16・17日	長野市立篠ノ井西中学校	職場体験	大竹憲昭
6月17日	長野市立綿内小学校	出前授業	町田勝則 内堀 団
7月2～4日	信州大学教育学部附属長野中学校	職場体験	大竹憲昭 鶴田典昭
7月16日	飯綱町立飯綱中学校		大竹憲昭 鶴田典昭
7月29日	長野日本大学学園長野小学校	体験学習（発掘作業）	町田勝則 鶴田典昭
7月29日～8月9日	長野工業高等専門学校	実務訓練（インターンシップ）	大竹憲昭 鶴田典昭
9月26日	長野市立篠ノ井東中学校	出前事業	大竹憲昭 岡村秀雄
10月9・10日	長野市立犀陵中学校	職場体験	大竹憲昭
	長野市立広徳中学校		大竹憲昭
10月10・11日	長野市立松代中学校		大竹憲昭
10月22・23日	長野市立川中島中学校		大竹憲昭 西 香子
10月23・24日	長野市立篠ノ井東中学校		大竹憲昭 西 香子
1月16日	長野県立篠ノ井高等学校		3年生教養講座
1月24日	南牧村立南牧南小学校	出前事業	大竹憲昭 岡村秀雄 町田勝則 谷 和隆 前田一也

(7) 資料の貸し出し

貸与先	貸与資料	貸与期間	備考
(有) 原製作所	中野市柳沢遺跡出土の銅鐸の3次元デジタル計測データ	掲載許可	銅鐸3点の3Dスキャンデータ及び組立データ
長岡市立科学博物館	中野市千田遺跡出土資料25点 同調査写真資料等9点	7月17日～9月上旬	長岡市馬高縄文館夏季企画展で展示及び解説等の写真掲載
飯田市教育委員会	飯田市神之峯城跡の写真	使用許可	「三遠南信しろあとセミナー」での事例報告として利用
御代田町立浅間縄文ミュージアム	佐久市周防畑遺跡群出土勾玉、飯田市竹佐中原遺跡の石器写真ほか	9月25日～12月13日	「発掘された信州の考古遺産展」で展示およびパネル掲示
篠ノ井下石川老人クラブ「親和会」	長野市塩崎遺跡群の写真パネル	11月10日	「文化芸能祭」における展示
長野県文化財活用活性化実行委員会	佐久市地家遺跡出土の板碑	掲載許可	「体感！信州の文化財ガイドツアー」パンフレットへの掲載
篠ノ井住民自治協議会塩崎地域委員会	長野市塩崎遺跡群の発掘調査写真	デジタルデータを提供	「協議会だより」への掲載
(株) しなのき書房	佐久市西近津遺跡群の大型竪穴住居跡写真	掲載許可	「信濃歴史の焦点(仮題)」への掲載
長野県立歴史館	長野市浅川扇状地遺跡群の発掘写真	デジタルデータを提供	「やさしい信濃の歴史講座」で利用
松本市立考古博物館	松本市海岸寺遺跡発掘調査写真	1月28日～2月23日	「発掘された松本2013」での展示
知久氏研究会	神之峯城跡発掘調査写真	2月21日～3月3日	下久堅地区「文化祭」における展示
(株) 週刊長野新聞社	長野市浅川扇状地遺跡群出土土器写真	掲載許可	「週刊長野」3月15日号への掲載
(株) ジャパン通信情報センター	神之峯城跡現地説明会資料	デジタルデータを提供	「文化財出土情報」5～6月号「各地の動向」への掲載
佐久考古学会	西近津遺跡群出土古代銅印	掲載許可	「佐久考古通信」No.112号への掲載

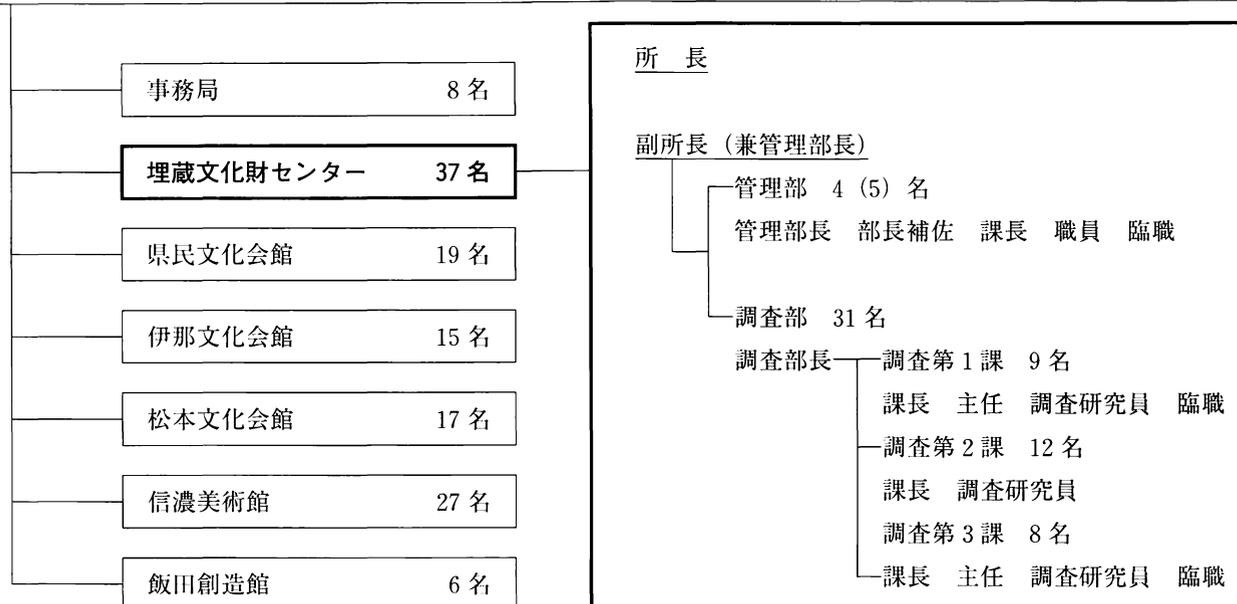
VI 組織・事業の概要

(1) 組織

【役員】 12名

H26.3.10 現在

理事長	前文化庁長官	副理事長	県芸術文化協会長	常務理事
理事	駒ヶ根高原美術館顧問	サイトウ・キネン・フェスティバル	松本総合コーディネーター	
	信濃美術館長	県民文化会館長	伊那文化会館長	飯田市上郷考古博物館長
				松本文化会館長
監事	2名			



(2) 職員（事務系臨時職員を除く）

H 26.3.10 現在

	所 長	窪田久雄
	副 所 長	会津敏男
管 理 部	管理部長（兼）	会津敏男
	管理部部长補佐	佐藤国昭
	管理課長	村山清治
	職 員	戸谷良子
調 査 部	調査部長	大竹憲昭
	調査課長	〔第1課〕 上田典男 〔第2課〕 岡村秀雄 〔第3課〕 町田勝則
	主任調査研究員	〔第1課〕 廣瀬昭弘 市川隆之 河西克造 〔第3課〕 綿田弘実
	調査研究員	〔第1課〕 西 香子 三木雅博 古賀弘一 前田一也 〔第2課〕 上田 真 伊藤友久 若林 卓 水澤教子 寺内貴美子 長谷川桂子 谷 和隆 柳澤 亮 栗林幸治 内堀 団 宮村誠二 〔第3課〕 鶴田典昭 黒岩 隆 廣田和穂 鈴木時夫 大澤泰智 高津希望
	調 査 員	〔第3課〕 大久保邦彦

(3) 事業

経費は H 26.3.22 現在

事業名		委託事業者	事業箇所	事業内容	経費(千円)	
受託事業	調査・整理・報告	中部横断自動車道	国土交通省 関東地方整備局	佐久市 周防畑遺跡群ほか	発掘作業 整理作業 報告	233,241
		一般国道 18 号 (坂城更埴バイパス)	国土交通省 関東地方整備局	長野市 塩崎遺跡群	発掘作業	91,447
		一般国道 474 号 飯喬道路	国土交通省 中部地方整備局	飯田市 神之峯城跡	発掘作業	126,808
		県道高田若槻線	長野建設事務所	長野市 浅川扇状地遺跡群	発掘作業	136,043
		県道豊田中野線	北信建設事務所	中野市 琵琶島遺跡	発掘作業整理作業	35,696
		県道三水中野線		中野市 南大原遺跡	発掘作業	23,854
		通常砂防	松本建設事務所	松本市 海岸寺遺跡	発掘作業	28,346
		農道改修	佐久地方事務所	南牧村 矢出川遺跡	発掘作業	10,141
	県営中山間総合整備	高森町	高森町 角田原遺跡	発掘作業 (技術指導)	7,623	
研修等	調査研究員研修事業等	県教育委員会	奈良文化財研究所等での 研修への参加、広報誌の 発刊	研修等	384	
自主事業	普及啓発等	3月：30周年企画展「掘ってわかった信州の歴史」 長野県の遺跡発掘 2013 長野県立歴史館 7月：30周年企画展「掘ってわかった信州の歴史」 長野県の遺跡発掘 2013 県伊那文化会館 8月：夏休み考古学チャレンジ教室 2月：屋代市民ギャラリー展 3月：速報展 長野県の遺跡発掘 2014 長野県立歴史館 随時：遺跡の現地説明会 広報誌等の発刊 「信州の遺跡」3・4号 「ジュニア考古学」 調査遺跡説明版設置(伊那市)		1,100		

長野県埋蔵文化財センター年報 30 2013

発行日 平成26年3月31日
編集発行 一般財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
電話：026-293-5926 FAX：026-293-8157
E-mail：info@naganomaibun.or.jp
印刷 信濃書籍印刷株式会社